

# 人夢未来

イノベーション

輝く新世紀

確実な地震予知方法  
究極の新人工降雨システム  
巨大共同溝で日本列島血液サラサラ  
100円のカーナビ  
バス鉄道は100倍便利になる  
風力発電自由自在

イノベーション

人・夢・未来  
輝く新世紀



まえがき

第1章 地震予知イノベーション ..... 3

地震予知自由自在

(1)	阪神大震災の教訓	.....	3
(2)	地震で崩壊する建築物の不思議	.....	5
(3)	地震発生の原因と定説	.....	7
(4)	地震発生原因の探究	.....	8
(5)	確実な地震予知は出来る—地震予知自由自在	.....	12
(6)	地震動の種類	.....	14

## 第2章

# 地球環境イノベーション

### 新人工降雨システム—究極の人工降雨

(1)	自然降雨の原理	18
(2)	新人工降雨システムのメカニズム 原理	18
(3)	新人工降雨システムの具体的方法	19
(4)	在来の人工降雨方法との比較	31
(5)	新人工降雨システムの効果	32
(6)	新人工降雨システム未来都市への展開	34
(7)	新人工降雨システムとピラミッド	39
	①ピラミッドは人工降雨目的だった	39
	②ピラミッド—運命のシナリオ	39
	③エジプトの特性とピラミッド—四千年のねがい	40
	④新人工降雨システムとピラミッド—運命の共演	42
(8)	新人工降雨システムの必要性—人類の未来をになう	47

### 第3章 地球メカのロマン

- (1) 山脈発生の原因と定説 ..... 49
- (2) 山脈発生原因の探究 ..... 50
- (3) 海洋発生原因の定説と探究 ..... 56
- (4) 生命起源・原因の定説と探究 ..... 57
- (5) 石油・石炭・天然ガス発生原因の定説と探究 ..... 58
- (6) 水は地球生命の恩人 ..... 59
- (7) 生物進化の探究 ..... 60

### 第4章 社会イノベーション

- (1) 国民・政治・行政の関係 ..... 62
- (2) 安くて便利なミニ空港 ..... 64
  - ① あなたの街から飛行艇で中距離観光日帰り旅行 ..... 64
  - ② 飛行艇で日本列島海岸定期周遊便 ..... 66
- (3) 高くてマズイ上水道 ..... 70

## 第5章

# 日本と日本人スピリット

- |     |                    |    |
|-----|--------------------|----|
| (1) | 青少年のライフワーク         | 84 |
| (2) | 地震予知システムの研究        | 85 |
| (3) | 漢字の合理的簡略化          | 86 |
| (4) | 国民自立の方向            | 88 |
| (5) | 法律と宗教              | 89 |
| (6) | マツタケと公経済           | 90 |
| (7) | 米不作年の人材            | 91 |
| (8) | 駐車違反ゼロの決め手         | 92 |
| (6) | 世界恒久平和の基礎          | 81 |
| (6) | ②巨大共同溝で日本のインフラ革命   | 78 |
| (6) | ①巨大共同溝で日本列島血液サラサラ  | 75 |
| (5) | 高速道路 鉄道に同時施工の巨大共同溝 | 75 |
| (4) | 安全で健康第一の上水道        | 72 |

第6章 交通イノベーション ..... 94

一、道路ガイド自由自在システム—百円のカーナビ ..... 94

(1) 交通事故・渋滞は激減出来る ..... 94

(2) 交通事故・渋滞の理由 ..... 97

(3) 交通事故・渋滞激減システム ..... 99

(4) 交通事故・渋滞激減具体法 ..... 100

「道路ガイド自由自在システム」実施応用例 ..... 100

(5) 「道路ガイド自由自在システム」のメリット ..... 109

わたしがえらぶわたしのみち

二、バス、鉄道ガイド自由自在システム—バス鉄道は百倍便利になる ..... 114

(1) 安くて便利なバス、鉄道ガイドシステムの必要性 ..... 114

(2) 安くて便利なバス、鉄道ガイド自由自在システム ..... 117

(3) 安くて便利になるバス、鉄道の具体法 ..... 117

「バス、鉄道ガイド自由自在システム」実施応用例

(4) 「バス、鉄道ガイド自由自在システム」のメリット ..... 128



# 第7章 エネルギーイノベーション

## エネルギー自由自在

一、集風力発電システム—究極の風力発電	131
(1) 進化する世界の風	131
(2) 集風力発電システムのメカニズム 原理	133
(3) 集風力発電システムの方法	134
各型状、規模、用途使用箇所等（安全対策共）	
(4) 集風力発電システムと在来風力発電方法との比較	169
(1) 風況について	170
(2) 環境性について	170
(3) 経済性について	171
(5) 集風力発電システムの将来性	173
二、集大気熱発電システム—エネルギー自給自足のキリ札	175
(1) 灼熱の大気はグッドエネルギー	175
(2) 集大気熱発電システムのメカニズム、原理	175

## 第8章 人類は恐竜の轍をふまない

(3)	集大気熱発電システムの効果	176
(4)	集大気熱発電システムの経済性	177
(5)	集大気熱発電システムの環境性	177
(6)	集大気熱発電システムの普遍性	178
(7)	集大気熱発電システムの今後	178

(1)	恐竜はなぜ絶滅したか	180
(2)	恐竜絶滅の理由の考え方	181
(3)	恐竜絶滅の原因	181
(4)	人類は恐竜の轍をふまないために	187

あとがき

## まえがき

この地球上に人類の祖先が出現してから八千万年位と言われていますが、それより以前の生物の発生からでははるか数億年以上は経っているのです、そのように溯れば現在に生きる人間各一人一人は、皆八千万年或いは数億年の歴史を背負っているわけです。

科学は仮説で進歩すると言われる。科学のみの世界に限らず社会全体超スピードの大変化の時代、同じようなことをやっていけば進歩は望めないのは当然と言えましょう。ベストと言えない現在のシステムもまた、変化の時代に合った新しい発想による改革が必要です。

各分野で仮説を立てる、立案する、それを検証し実験し実施することが社会の進歩発展に必要不可欠です。

現在社会では仕事や職業が細分化され、それぞれ専門の分野で専門家として判断し処理するシステムが固定化しておりますが、鹿を追うもの山を見ずのたとえもあ

りますが、人間の当面するあらゆることについて、例えば、バケツが水濡れしないか調べるのに顕微鏡で調べて証明しても方法ではありませんが、水を入れたらわかることであり、簡単なことをどんどん難しくややこしく考え処理する、専門家だけにまかせきるのではなく、我々自身が人類八千万年の歴史を背負った地球人の一人一人として、各々自分自身を守り、社会全体に役立つため素直に本能的に物事を考え行動する必要があるのです。

今、阪神大震災時の脆弱な危機管理・建設バブル・経済バブル・エイズの薬害医療・アスベスト災害などの諸問題とそれら専門家の存在が、改めて厳しく問われている時なおさらその感を深くするのです。

自由主義経済のもと創意工夫し、平和を追求し繁栄して来た日本。新世紀を迎え常に創意工夫し、改新し、前進しなければこの国の未来はありません。結局は社会システムの良否の問題です。止まることは退くこと、停滞は後退です。国土は狭くても、資源は少なくても世界に燦然と輝け、われらの祖国日本。輝く新世紀へより多くの知恵を人類の発展と幸福のため生かして行かなければならないと考えるのです。

# 第1章 地震予知イノベーション

## 地震予知自由自在

### (1) 阪神大震災の教訓

日本のシステムの根本をゆるがした平成七年一月十七日未明の十数秒、都市直下型マグニチュード七・二を受けた兵庫県南部の大震災。連日連夜天焦がす紅蓮の炎、一滴の水も出ないホースを持ったまま呆然と立ちつくす消防士に民衆の悲鳴にも似た怒声が飛ぶ。壊れる筈のないビル・高速道路・マンションが無残に崩壊、神戸に近づく程神戸でなくなる神戸のまち。くずれた民家に生き埋めとなり組織的救援もなく、迫り来る炎に襲われた民衆の姿はまさに地獄絵、悲惨の極みとなりました。

大震災から十度目の秋を迎え、人々は憑かれたように黙々と復旧にはげんで来ました。まちは又いつかよみがえるかも知れませんが、失われた命はかえらないのです。何れ又必ず起きると予想される大地震に、原始時代から変わらず只々なすがま

まの、大自然の力におびえていなければならないというのは、今の時代まことに寂しく、悲しいことだといわねばなりません。

日本は、世界有数の地震国です。いつどこで大地震が起こっても不思議ではありません。今後又、再びこのような都市直下型地震に東京・大阪が襲われたら、過去に被災した経験をもとにどのような対策を立てていようとも、災害は人智を越え予想外の事態が起こることは確実です。その結果、都市の崩壊のみに止まらず、壊滅的打撃を受けて日本は暫時マヒしてしまうことも想像されます。

この世から地震そのものをなくすことは不可能でありましょうが、このような地震災害から被害を最小限に抑えるには地震を予知するしかありません。予知はすべてに勝る最高の対策なのです。

専門家は、地震の原因ははっきりわかっているが、予知は全く不可能であると言います。地上に表われて来る地震という結果があり、その原因がはっきりしているのに予知が全く不可能というのは矛盾していると思えるのですが、しかし、予知なくして大災害を避けることも又不可能です。

大地震のたびに多くの人命が失われ、まちまちがなすすべもなく崩壊していたの

では国民はいつも地震におびえていなければなりません。大地震のたびに大被害をくり返さないためにも、今こそ地震原因の究明と地震予知に全力を尽くすべき時であると考えerるのです。

## (2) 地震で崩壊する建築物の不思議

もともと、建築や土木などの構造物の強さを支える骨組みの主材料となるコンクリートや鉄材は、総合的に実際の強度の三分の一ぐらいの強さで設計されています。言い替えますと実際の建築物や高速道路・橋などは設計の三倍の強さがあると言えるのです。

地震の多い日本では、大正十二年の関東大震災以来多くの大地震があり、地震に対する建築物や構造物強度への関心は高く、その対策も十分研究されて来ました。その結果、これまでの経験をもとにいまの建築物や高速道路などの構造強度は予想し得る大地震を想定して設計され、完成したものはその三倍の強さを持っていた筈です。

今度の阪神大震災はマグニチュード七・二で、都市直下型地震としてはマグニチュー

ド七・九の関東大地震以来と言われます。一方地震と並び大きな被害をもたらす台風は、実際には最大風速毎秒五十メートルとか八十メートルとかがありますが、理論的には最大風速百メートルにも百五十メートルにもなりうる可能性はあるのとことです。が、地震で今までの最大のものとは昭和三十五年のチリ沖地震のマグニチュード八・五というのがありますが、それ以上マグニチュード十・〇とか十・五というのは理論的にも起こり得ないと言われています。

そのように、今まで起こった大地震の結果と経験をもとに設計され、実際はその三倍の強さを持った、壊れるはずのない多くの構造物が今回の阪神大地震で壊れ、或いは大損害を受けましたが、反面隣接していても殆ど無傷の構造物があったのも事実です。そしてそれらの中には最近出来たものが壊れ、隣接していた同規模の古く昭和初期に出来たものが壊れなかったというものもあつたのです。

かくして数多くの建築物や高速道路が壊れ、貴い多くの人命が失われました。

壊れる筈のないものが壊れ、失われる筈のない人命が失われても、あまり大きな問題にならない、責任者のいない、不思議の国、ニッポン。しのび来る危機、このままではいつの日か又同じ大災害がくり返されるに違いありません。



### (3) 地震発生の原因と定説

しかし何と言いましても、このような被害を与える根本原因は地震そのものにあります。この地震そのものを人間の力で止めることはおそらく不可能でありましょうが、確実に予知が出来れば対応策も充分にとることが出来ますので、人的物的被害も最小限に止めることが出来るのです。

地震予知を確実にするためには、地震はどうして起こるか、地震の原因を正しく解明し、把握することが必要です。阪神大震災以後地震予知に対する世間の関心も高まり、各地に数多くの震度計も設置され、防災計画も一段と強化されていますが、その後日本で発生した中小の地震の予知が適中したという話があり聞かれないのは残念です。このままではいつになったら確実な地震の予知が出来るのか甚だ不安です。そこでこの際もう一度地震の起こる原因について次元を変えて考えてみる必要があるのではないかと思うのです。

#### (4) 地震発生原因の探究

現在の地震の原因説としまして、地球の表面を覆っている厚さ七〇キロメートルから一五〇キロメートル程のプレートと呼ばれる硬い岩の層が押されて他の同様のプレートにぶつかり、そのぶつかったところの岩がこわれて地震になるといふことのようにです。地震予知もこの説にもとづいて行われているのでしようが、未だかつて確実な予知はなされておりません。これが本当に地震の原因でしようか、これが本当ならば、余震予知ぐらいは相当正確に出来ると思うのですがあまりにもスケールの大きなことなのでピンと来ないのです。

地震はそのような壮大なスケールで起こることもあるのかも知れませんが、我々の経験では、戦時中五十キロ爆弾が二キロメートル程離れたところに落下し、直径五十メートル位の円錐形の穴が出来ていました。爆弾が落ちた時今でいうマグニチュード二・〇位の、一瞬地震かなと思う震度を感じたこともありました。又最近地方の気象台から、海底での震源地点まで特定した震度一か二の地震警報がありました。二、三日して訂正があり、それは結局地震ではなく近くのビルのダイナマイト破壊

による震動であったこともありました。

われわれが疑問に思いますのは、厚さ七〇キロメートルから一五〇キロメートルもの長さ数百キロメートルから数千キロメートルの巨大な岩盤で出来たプレートを、絶え間なく一方的に押し動かす力はどのような力なのでしょうか。それは地下数百キロメートルもの深さにあるマンツルの熱対流であると言われていますが、おそらくそれは天文学的の巨大な力であるはずです。

地球上には地震の多い地域と全く地震のない地域とがありますが、何故特定地域だけ巨大プレートを動かし地震を起こす巨大なエネルギーが存在し得るのでしょうか。もしそのような地球表面の巨大なプレートを一方的に動かす力が絶え間なく続いているならば、地球内部の力のバランスはどうなっているのでしょうか。説明しなければなりません。

アメリカのアポロ計画で月に地震計が設置され、月にも地震があることがわかりました。地下マグマによる現在のプレートの移動による地震説からすれば、月にもマグマが存在するのでしょうか。又、日本列島は、かつてはアジア大陸の東の端にあったが、だんだん大陸から離れその間に日本海が生まれ、今のような島国に独立

してしまつたといわれているが、日本列島には巨大な太平洋プレートが絶えず押し続けているのに、何故今も日本海が拡大を続けているのか現在の地震発生原因説とも密接な関係があると思われ、その明確な説明が待たれるところです。

日本は世界ナンバーワン級の地震国であり地震被害国です。世界で最も進んだ地震対策が必要な日本に於て確かな地震予知システムは必要不可欠です。日本の地震学は世界のトップレベルにあるとのことですが、未だ地震を予知するに至っていないのです。地震予知の重要性からも地震の原因を今一度原点に立って考えることの必要性が痛感されます。

宇宙のすべてはバランスを保つて存在していると考えられますが、宇宙の一員としての地球も例外ではあり得ません。

地震が発生する原因を別の面から考えて見ますと、地球表層部に近い固い岩盤などで出来ている上部マントルの或る部分に、一定の圧力と温度が加われれば溶けやすい、いわば熔岩のもとになるような物質があります。それらの物質は、何十億年前、宇宙が大爆発を起こした時発生した、たくさんの破片で出来た多くの星の中の一つとして地球が誕生した地球創生の時、地球内部のところどころに組込まれてい

たものです。それらがところによってはドロドロの形で火山の噴火となって噴き出す所もあるでしょうが、すでに熔岩になっている部分・熔岩になりつつある部分・熔岩が固まりつつある部分などの不安定な部分の中で泡のように希薄な部分が出来、それらが或る一定の大きさになると周囲の圧力に抗しきれず、自然の力はシンプルに最も身近なところに働いて、だんだんと遠くのほうに伝えていき、上下左右の岩盤の圧力が泡のような希薄な部分に向かって動きます。そして泡は急激に圧縮されペチャンコとなり、その時圧力をうけた周囲の岩盤が上下左右に動き地震が発生するのではないかと考えるのです。

そして最近、地球誕生の時、宇宙よりもたらされた無限とも言うべき量の天然ガスが地球深層部に存在すると言われ、現在地上近くで発見されている天然ガスはその一部が地中を伝って地層に溜まったものであるとも言われています。そのガスが地層の隙間を伝って地層に溜まったものであるとも言われています。そのガスが地層の隙間を伝って来て、圧力と温度の加わった溶けやすい物質が交わって更に大きなドロドロの熔岩となり、その内部に希薄なバブルが出来、それがはじけてペチャンコとなって地震が発生する場合も考えられます。

従って、一般に言われているように活断層があるから地震が発生するのではなく、地震が起きたから断層が出来たのです。ゆえに断層自身が活断層として直接地震の原因となる動きをすることはないはずですが。しかし活断層の下部には地震を起こした上部マントルの中の、溶けやすい物質をもった不安定な部分が相変らず存在して、希薄な部分が出来る可能性が高いと考えるべきで、今後又地震を発生させる状態となることが充分あり得るので、引き続き重力変化の状況などを含めた監視調査を行い注意を続ける必要はあり、その意味からしますと活断層の上部附近はなお地震発生要注意地域と言えます。

(5) 確実な地震予知は出来る—地震予知自由自在

この地球上部マントル内の、ドロドロに溶けた熔岩内に発生したバブルが、急激につぶれてペシヤンコになるのが地震の原因としますと、その地震の予知方法は、地球内部物質の質量密度・重力や地磁気などの微妙な変化を各地で測定し、バブルの位置形状大きさなどの存在を確かめ総合的に解析すれば確実な地震予知が出来るのです。

かつては地震は地下のナマズが暴れるからだとか、或いは地震発生の前ぶれとして地震雲が出るとか言われました。水槽で金魚を飼っていると、浄化装置を通った水がパイプで水槽に落下する真下に金魚が来ると、落下水の重力が急に金魚にかかるので瞬間金魚はひどく驚いて激しく暴れますが、これは金魚が突然の重力の変化を感じたためであり、地震の前ナマズが暴れるのも、ナマズが自分の真下に当る地球内部の重力地磁気などの微妙な変化を感じ取ったからであると思われ、暴れる理由がわかります。或いは又大地震のあった当日、淡水魚のナマズが海中で獲れたと言われます。おそらくこのナマズは相当以前から、自分の住んでいる、自分自身の真下に当たる地球内部のバブルの発生のような不安定な部分による重力などの変化を体で感じたので、本能的に不安となりそこを逃げ出し、今まで居たところと同じ重力などのところをさがして徐々に居場所を移しているうちに、塩水の海に入ってしまったって考えたと考えられるのです。

このようにナマズと言う生き物が感じるような地球内部の重力などの変化を各地で常に測定し、一定のデータを集め解析し総合的に判断すれば地震予知が確実に出来ると思うのです。

その他地震発生前に出ると言われている地震雲も、このように地球内部の重力の変化が雲に影響を与えるのではないかと考えられます。

#### (6) 地震動の種類

地震動の種類に直下型の上下動ともう一種類の水平動とがあることが今まで一般に言われていますが、直下型の上下動から水平動に変わる過程で、上下でも水平でもない斜め動き、即ち斜動とも呼ぶべき動きがあるのを、今回の阪神大震災の震源地の近くと言われる神戸の西の端の地区で体験しました。

事実、今回の阪神淡路大地震程度の地震は、小学生の頃体験した南海大地震の方が水平動は余程大きかったように思いますが、今回の大地震が火災発生条件を除いても建物など構造物の被害は南海大地震と比べものにならない程大きかったのは、地震の時窓から外部を見ていて、地震のゆれ始めの上下動の時は建物や家具などの変化はあまりありませんでしたが、しばらくして上下動から斜動そして水平動に移り出してから、まわりの建物が急に壊れ出し、家の中の家具などがにわかに倒れ出して来たのを実感しました。



構造物は真下からの力、直圧力には比較的強く、場合によっては強さを増すこともあります。横からの力の水平力や曲げの力には案外脆いと言われています。斜動といっても単にタテとヨコの組合せであるとも言えますが、実際体験から斜動の時には理論以外の力がかかっているのではないかと思うのです。今後構造物などの地震対策の設計には、この斜動の対策も考慮しなければいけないのではないかと考えられます。

## 第2章 地球環境イノベーション

### 人工降雨システム—人類の未来をになう

水は地球上の生きとし生けるもの、生物植物を問わず、あらゆる動植物に欠かすことの出来ない資源であることは、過去、現在より永遠の未来に至る太古よりの真理でありましょう。

この水は今まで、天からの贈りもの、授かりものとして自然のままに享受してきましたが、時代は移り地球環境の激変と共に水需要も拡大し、水を求める地域が地球規模で爆発的に増大して来ており、科学技術を駆使し人智を結集して人工的に必要な雨を降らすことは人類悲願の一つであり続けており、試みは今まで種々なさされているようでありますが、決め手となる方法は未だ見出し得難く何れの方法も現在に於いて実用には至っておりません。

世界には年間を通じ、非常に降雨量が少なくて困っている砂漠地域の人々や、ふだん降雨量がある所でも、年によって極端に少なく農作物や牧草が干ばつなどで育

たない地方や、他方一時期集中的に雨が多量に降るため、洪水などで人命や農作物などに大きな被害を受ける地域の人々もたくさんあります。そこで降雨量を必要ない地域に必要な時期に降らすことが出来るよう或る程度コントロール出来れば地球環境は大きく変わり、世界中の人類はもとより動物植物生きとし生きるものすべてその恩恵を受けることになるでしょう。

しかし、大気が非常に高いところまで完全に、空气中に浮かぶ限度一杯の厚い雨雲で飽和していても、そしてそのすべてが雨になったとしても、そのみでは三十mm程の雨しか降らすことは出来ません。一つの湿った空気塊から多量の雨を降らすことはありません。多量のまとまった雨を得るためには地形性降雨型の雨が必要です。そのため画期的人工降雨システムが必要です。

このように人工降雨の成否は人類のそして地球のすべての生きとし生けるものの未来の運命がかかっており、逆に言えば人工降雨の成功なくして、人類の未来そして地球の未来、世界の未来はないものと言えましょう。

“新人工降雨システム”は自然が多量の安定した雨を降らす原理を応用して、必要な、時、場所、量の雨を自然状況を人工的に補完して降雨させるシステムです。

## (1) 自然降雨の原理

湿った空気が上昇し圧力が減ると膨張し体積が増し温度が下がり次第に低くなっていき、温度が低くなると、中に含まれている水蒸気が凍り始め、だんだんにその粒が大きくなっていき、遂にその重さに耐えきれなくなり地上に向かって落ちていき途中で溶けて雨となります。

これが溶けずに地上に落下すると雪になります。

自然降雨現象はいろいろな型に別けられ、乱流性降水、対流性降水、地形性降水、低気圧性降水、前線性降水、等々ありますが、多量の安定した量の降水をもたらすのは地形性降水であるといわれております。

## (2) 新人工降雨システムのメカニズム 原理

強い大量に湿った空気を含んだ風が、山や山脈や高い崖なでにぶつかると強制的に上昇させられ、冷却し、山や山脈の風上側に雲が発生し、そこへ続々と大量の湿った空気が絶えず流入し降雨の原理がくり返され大量の雨や雪を降らせませます。冬期の

日本列島日本海側の大降水（降雨）や世界的には南米ギアナやベネズエラのテーブル台型高地によるアマゾン川の源流源水となる大降水はこれに当たりますが、このような自然現象として存在する“地形性降雨”を自然を最大限に活用し、不足部分を現在の技術で可能な人工構造物等で補完し、人工地形性降雨を発生さすようにしたものが、この新人工降雨システムです。

### (3) 新人工降雨システムの具体的方法

A・新人工降雨発生システムの規模、形状、材料等

#### 規模の目安

南米の世界屈指の大河アマゾン川の源流となる南米ギアナ高地の豪雨は、背後の九百二十m位の山地脈に大西洋からの湿った大量の風が吹き付け、大量の降雨をもたらす地形性降雨の典型的なものと言われており、最近でも一九九九年同地ベネズエラ、ラグアイラ地方の、死者不明者三万人、家を失った人四十万人の大洪水があります。

降雨に比較的めぐまれていると言われている日本でも、瀬戸内地方は降雨は少な

いほうで、年度により深刻な渇水年があつても、“六甲山にカラ梅雨なし”と言われていた山は降雨に不足せず、山や山脈は昔から雨を呼び水を生ずる源なのです。

これらを目安として、人工的地形性降雨発生用の人工山脈の現在の技術で充分可能な規模を次のように決める。

人工的地形性降雨発生用人工山脈の規模

(例) 中央部 集風及び上昇気流発生部 (可動)

高さ 一〇〇〇m 前後

巾 八km 前後

両翼 (各) 集風及び上昇気流発生部 (可動)

高さ 一〇〇〇m ~ 三〇〇m 前後

巾 一六km 前後

形状 図示

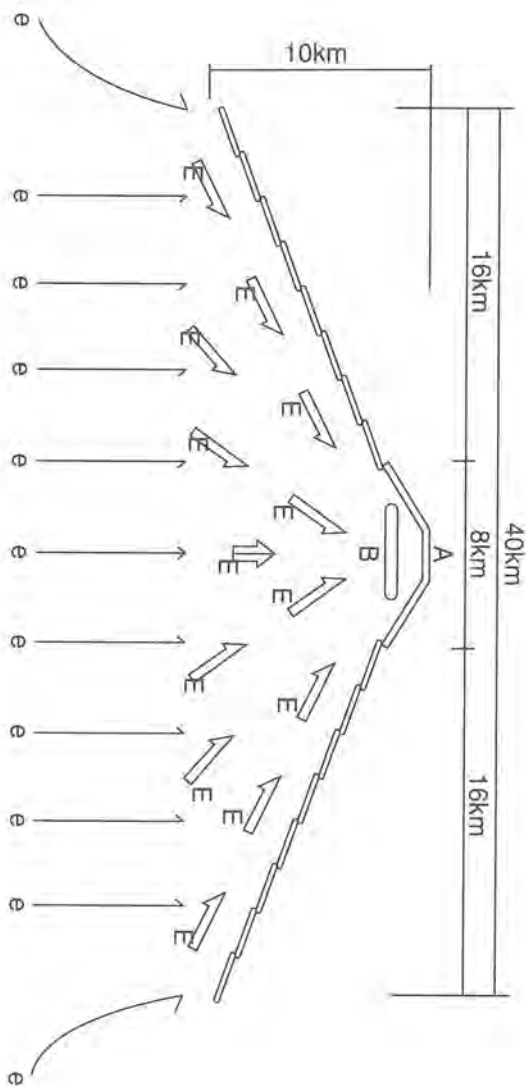
# 人工的地形性降雨発生用人工山脈の形状・規模

図 (I ~ 1)

凡例 23頁

(例)

配置・平面図



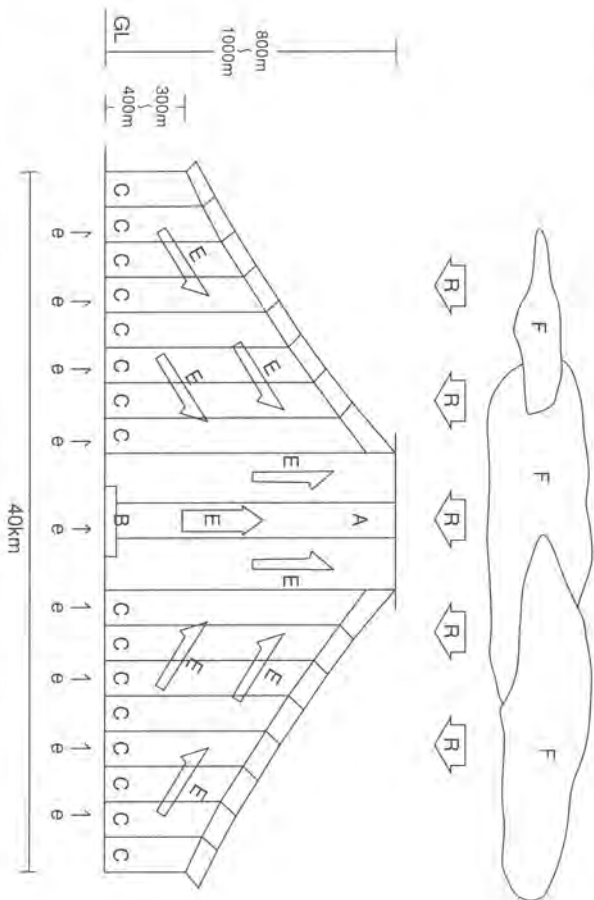
# 人工的地形性降雨発生用人工山脈の形状・規模

図 ( I ~ 2 )

凡例 23頁

(例)

正面・立面図



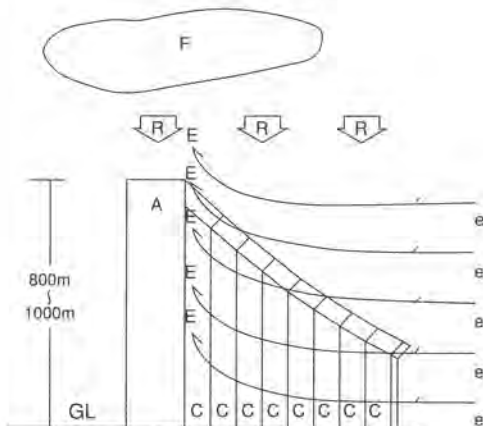


# 人工的地形性降雨発生用人工山脈の形状・規模

図( I ~3)

(例)

横立面図

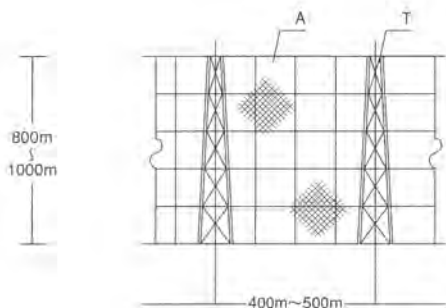


図( I ~1・2・3) 凡例

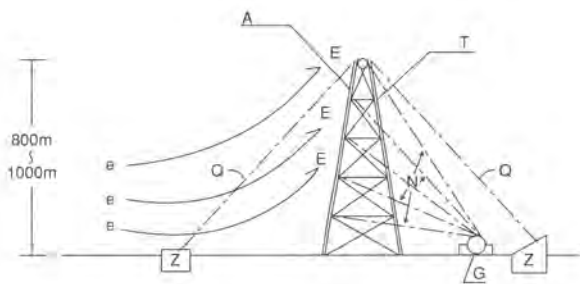
- (A) = 中央集風上昇気流発生設備  
高=1000m 長=8km 前後の壁で、湿った空気を含んだ大量の自然風を集め、せき止めて絶えず上昇気流を起こす。
- (B) = 冷気、暖気等も与え(E)の上昇力を補助する人工送風機。
- (C) = 自然風集風設備(受風角度可動式)  
高=300~1000m 長=1000m 前後の壁で、湿った空気を含んだ自然風を中央集風部(A)に誘導する、  
常時効果的集風角度を保つよう、集風角度は自動制御可動式とする。
- (e) = 湿った空気を含んだ自然風。
- (E) = 集風された大量の湿った空気。
- (F) = (A)~(E)により発生した雨雲。
- (R) = (F)に大量の(D) (E)が絶え間なく吹き込み大量降雨(降水)が発生する。

多雨、多雪地域では(C)の集風壁角度調節により大量の湿った空気を含んだ自然風を分散し、集中大雨、洪水を防ぐ。

# 人工的地形性降雨発生用人工山脈の形状・規模 図(Ⅱ)



中央部分



断面図

凡例

- A = 〈ワイヤーロープ補強〉上昇気流発生用遮蔽壁
- E = 集風された大量の湿った上昇大気
- e = 風向方向 (海や森林などからの湿った空気)
- G = ウインチ (巻上げ・巻下し)
- N = 〈A〉巻上げ・巻下し用ワイヤーロープ
- Q = タワー強化支線 (ワイヤーロープ)
- T = タワー
- Z = アンカレイジ

中央部の八kmに千mの鉄塔を等間隔に建てその間に、スチールワイヤー等で補強したスーパー繊維等のシートなどを張って風をせき止め上昇気流を起こす。このシートなどは上下へ台風時などを含めた保守管理上のため可動型とする。

各両翼十六kmのウイング部分は風を集めやすくするため、高さ三百mから千mのスチールワイヤー等で補強した。スーパー繊維等のシートなどの集風壁を中央部に向かつて徐々に高くなるよう配列し、風に向かつての壁の角度は集風効率が最良となるよう、最適風向をコンピュータで感知して自動制御する。

山や丘、台地上等に建設する場合は鉄塔の高さはその分低くすることが出来る。尚、風せき止め用シートは台風強風時などの保守管理のため下部などの安全な位置に移動出来るよう可動とする。

以上は低平地などを想定の基本的な形ですが、現実を実施する時は、降雨条件が或る程度満たされている地域の自然地形現状を、人工降雨発生型に人工的に補完して実施していくのが良策であり、このような適地を選べば、容易に成功し実現出来る。人工降雨システムとなる。

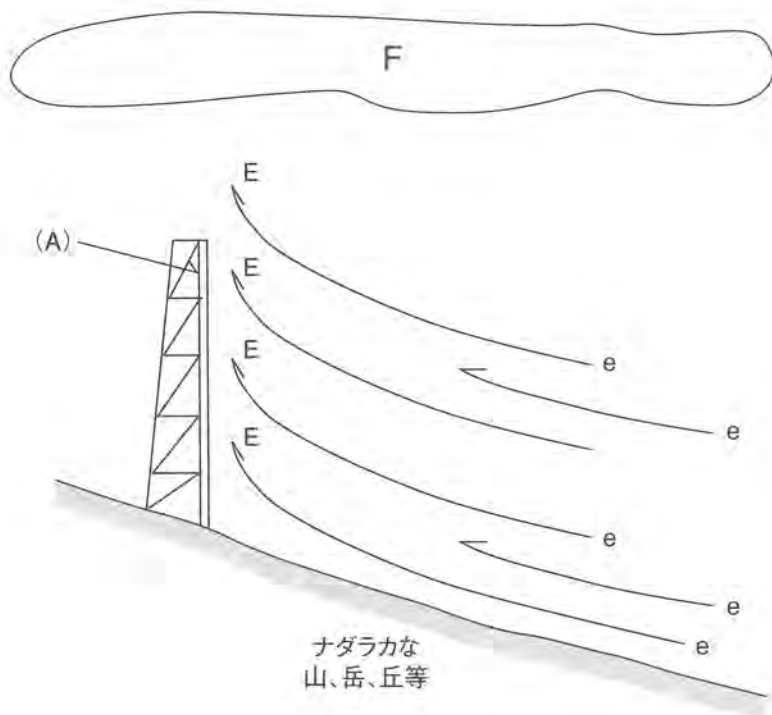
これらの適地としては

①海から湿った空気を含んだ風が吹く海岸にそつた低い山脈で風がその上を素通りし降雨に必要な上昇気流を起し難かつた山脈の斜面から頂上或は頂上部に亘つて上昇気流を起すように、人工的な補完設備を施し、人工的地形性降雨を実現させる。

②高い山と山との間を湿った空気を含んだ風が常に通り抜けているところに上昇気流を起さすよう人工的な補完設備を施し、人工的地形性降雨を促進させます。これは山の頂上と頂上或は山の峰と峰の間にちようど吊り橋を作る時のようにワイヤーロープを渡し、これに上昇気流発生用遮蔽物を設置し、谷間或は峡谷を吹き抜けて来る、湿った空気を上昇気流に変え雨雲を作り、人工雨を降らせます。このように人工降雨に適したあらゆる天然地形を利用して、世界の、必要なところに、必要な量の、必要な時に、恵みの雨を降らせます。

### ③その他各種

# 人工的地形性降雨発生用装置の規模 自然地形活用型（I）

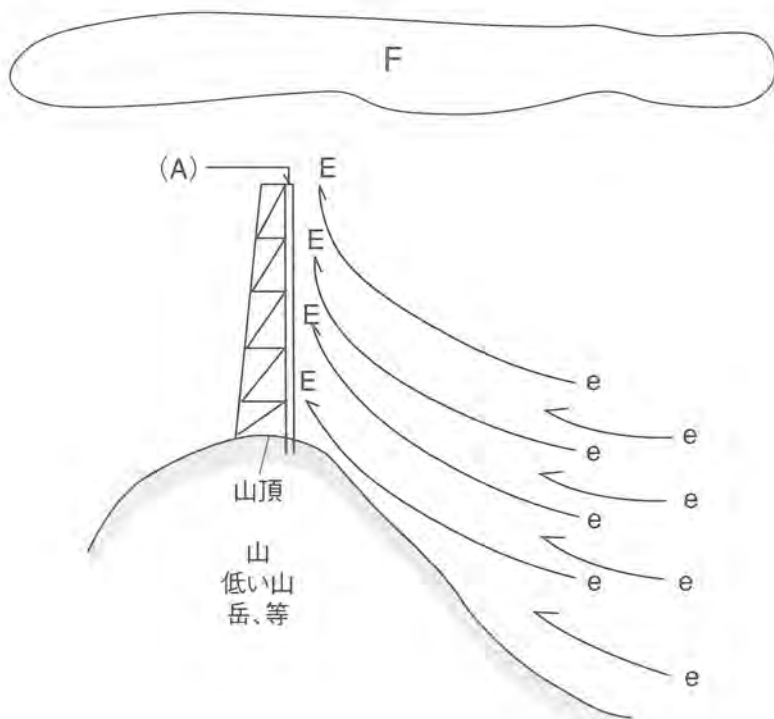


ナダラかな  
山、岳、丘等

凡例

- A = 上昇気流発生用の遮蔽壁
- E = 集風された大量の湿った上昇大気
- e = 湿った自然風
- F = C、D、E、によって発生した大量の雨雲

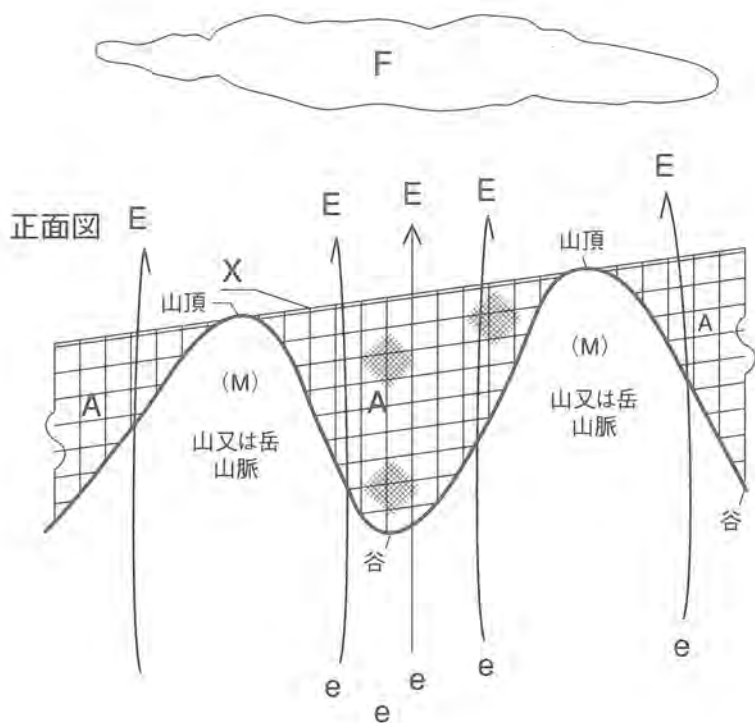
## 人工的地形性降雨発生用装置の規模 自然地形活用型（Ⅱ）



凡例

- A = 上昇気流発生用の遮蔽壁
- E = 集風された大量の湿った上昇気流
- e = 湿った自然風
- F = C、D、E、によって発生した大量の雨雲

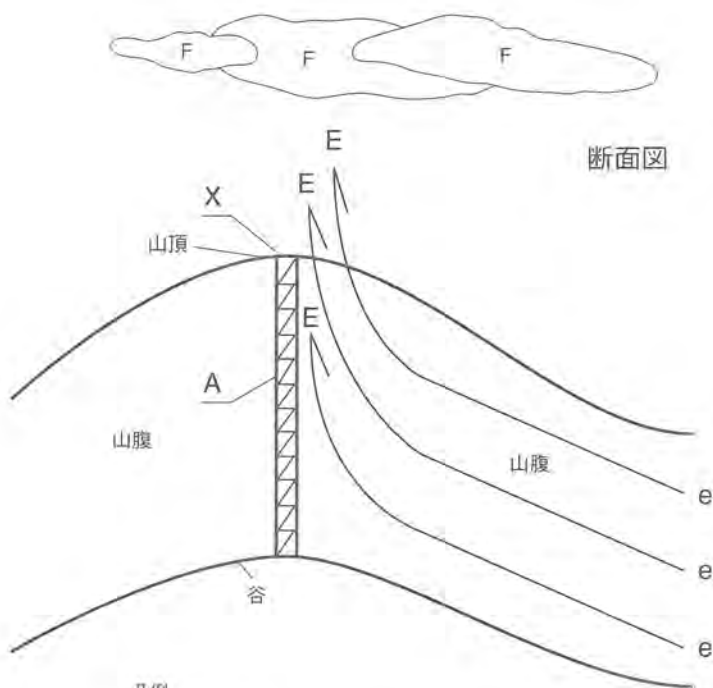
## 人工的地形性降雨発生用装置 天然地形活用型（Ⅲ）



凡例

- A = 上昇気流発生用人工遮蔽壁
- E = (e) が (A) によって上昇させられた雨雲を作る  
湿った大量の気
- e = 山と山、山脈と山脈(谷)を吹き抜けて来る湿  
った気
- F = (A) (e) (E) によって発生した大量の雨雲
- M = 山又は山脈、岳、台地等
- X = スチールワイヤー

## 人工的地形性降雨発生用装置 天然地形活用型（Ⅲ）



凡例

- A = 上昇気流発生用人工遮蔽壁
- E = (C)が(A)によって上昇させられた雨雲を作る湿った大量の大気
- e = 山と山、山脈と山脈(谷)を吹き抜けて来る湿った大気
- F = (A)(C)(E)によって発生した大量の雨雲
- M = 山又は山脈、岳、台地等
- X = スチールワイヤー



#### (4) 在来の人工降雨方法との比較

人工的に雨を降らす試みは今まで多種多様の方法が行われて来ました。長く日照りが続き降雨を待ち望むようになるやと修験者などが数拾日間昼夜をわかつた。野火(護摩)を焚いて降雨を天に祈りました。又木造建築物の多かつた以前の都市や街が大火に遭うとその翌日以後ぐらいに必ずその地方に雨が降りました。そして山火事などで森林が焼けると数日後には雨が降って自然に鎮火することが多いようですが、これらは大火によつて上昇気流が誘発され低気圧発生に伴う雨雲が発生し降雨をもたらしたものと考えられますが、これらも一種の人工降雨と言えるかも知れません。地球上の大気に含まれる水蒸気を水にすると約二cmの深さになるといわれ、又地球上の大気は何処でも湿気を持っており砂漠上の大気も勿論湿気を持っています。その証拠に砂漠に氷水を入れたコップを置くと水滴が付きます。ですから地球上の何処でもそこに適当な上昇気流を起せば、雨雲を発生させ、雨を降らすことが出来るのです。最近では飛行機で雨雲にドライアイスや沃化銀などを散布する、人工降雨方法が行われているようですが、実験の結果一時間に一mmの降雨があつたと

伝えられていましたが現在までのところ安定した大量の降雨を得るに至っていないようです。

このように今までの人工降雨方式は自然現象から発生した雨雲からどのようにして雨を得るかにありましたが、大気が非常に高いところまで完全に、空気中に浮かぶ限度一杯の厚い雨雲で飽和していて、そのすべてが雨になったとしても、そのみでは三十mm程の雨しか降らすことは出来ません。又一つの湿った空気塊から多量の雨が降ることはありません。強い安定した多量の雨が降るためには、地形性降雨型の雨が必要です。この「新人工降雨システム」は降雨の基本である、雨雲を人工的に作ることから始める画期的な「新人工降雨システム」です。

#### (5) 新人工降雨システムの効果

アフリカ大陸の1/3を占めるサハラ砂漠も五千年ほど前は、木や草が茂り動物なども多く住んでいたし大規模な河川もうるおす豊かな雨にめぐまれていたといわれており、このころを「グリーンサハラ」とも呼ばれているほどです。地域は自分で自分の気候を作るといいますが人間が農業や放牧を始めだしてからは次第に砂漠化が

進み、歯止めがかからなくなるともう再びもとの緑地にはもどらないのです。このように地球上での砂漠化はアフリカ大陸のみに止まらず、アジア大陸南北アメリカ大陸など今地球上では各地で急速に砂漠化が進んできており、二十一世紀始めには地球上の砂漠の総面積は二十%以上にもなると予想されています。

世界の水不足は砂漠地域に限らず、農業用水のすべてを地下水に依存している北米大陸の穀倉地帯や中国の華北地帯そしてインド全土など、これらは地下水位の低下により水不足のみならず、陸の塩分を流し去るだけの雨が降らなければ、灌漑農業、地下水農業は何れ地中よりしみ出した塩分により農業が出来なくなるおそれが出てきます。

二〇二五年には世界で三十五億人分の水が不足するといわれ、水は二十一世紀最大の国際問題になるといわれており、原因が水に絡む国際的トラブルや戦斗なども含めて多発しております。

安定した人工降雨システムは、世界中の砂漠を緑豊かな穀倉地帯に変え、禿山を緑にし地下水農業を改善し、世界の過酷な農業を解放し、よい飲料水や生活用水等を供給し、温暖化、洪水、台風などの発生をくい止め、ひいては地球環境の改善に

画期的貢献を果たします。

(6) 新人工降雨システム未来都市への展開

これらのような「新人工降雨システム」を半恒久的未来都市として実施する構想を例示すれば、中央部の長さ8km、高さ1km級の部分を鉄骨又は鉄筋コンクリート造のビルとし、その中に都市機能に必要な施設をすべて収容する、人工都市を構成する。地上層は大別してJ・K・Lの三層に別け、Jゾーンには、共同住宅・寄宿舎・教会等とし、Kゾーンには、ホテル・病院・官庁・学校・図書館などとし、Lゾーンには、スーパー・商店・会社事務所・劇場等を収容し、地下層には鉄道・道路・車庫・工場等とし、屋上は、ヘリポート・遊園地・公園・レジャー施設等とし、風力発電や太陽光発電を行う。

両翼16km部は先述と同じ、ウイング部とし、最適上昇気流発生用可動遮蔽物とする。

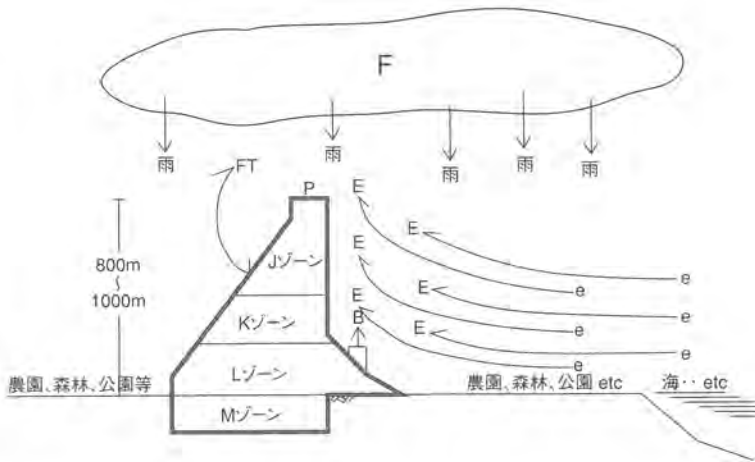
この人工的地形性降雨発生用山脈に、海などから、大量に湿った空気がぶつかり、強制的に上昇気流が生じ、雲が発生し、そこへ続々と大量の湿った空気が流入し続

け、大量の雨や雪を本格的に降らせませす。

この人工都市の風上側にはこの人工都市構造物が人工降雨の遮蔽物が核となつてもたらされる大量の人為的降水により、これを中心として広大な農業地帯を営み又森林や公園も整備し、砂漠やサバンナ或は水不足地域の環境に革命をもたらしませす。

かくして今広大な砂漠地帯となつてゐるサハラにも、新人工降雨システムの山脈都市や、さまざまなる形のそれらのものを設けるプログラムが広がり、アフリカ隆盛のホープともなり得るでありませす。

## 新人工降雨システム未来都市構想

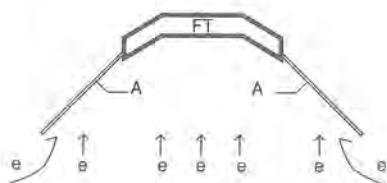


### 凡例

- B = 冷氣・暖気等を加え湿った空気を含んだ自然風の上昇力を補助する、人工送風機
  - E = 集風された大量の湿った上昇大気
  - e = 湿った風の方向
  - F = (FT) (E) (D) によって発生した大量の雨雲
  - FT = 人工降雨用未来都市
  - Jゾーン = 住宅、寄宿舎、教会、共同住宅 …… etc
  - Kゾーン = ホテル、病院、図書館 …… etc
  - Lゾーン = 官庁、事務所、劇場、スーパー、商店 …… etc
  - Mゾーン = 鉄道、道路、倉庫、工場 …… etc
  - Pゾーン = ヘリポート、遊園地、公園 …… etc
- 延長8~10km

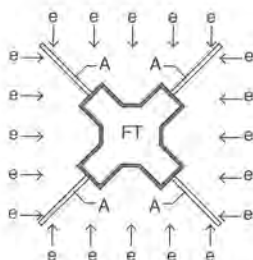
# 新人工降雨システム未来都市構想スタイル

平面図



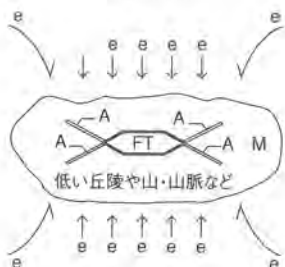
曲面型

平面図



方射型

平面図



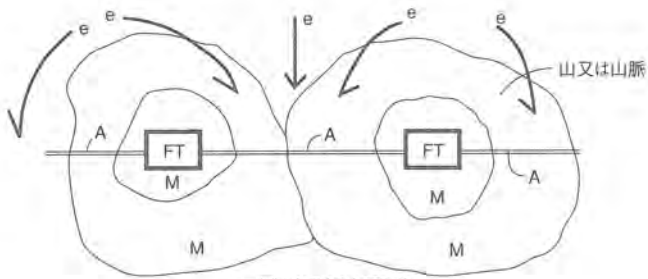
直線型

凡例

- A = 上昇気流発生用人工遮蔽壁
- E = (C) (D) によって上昇させられた雨雲を作る湿った大量の大气
- e = 山と山、山脈と山脈を吹き上げて来る湿った大气
- FT = 未来都市
- M = 山又は山脈、丘、台地等
- T = タワー

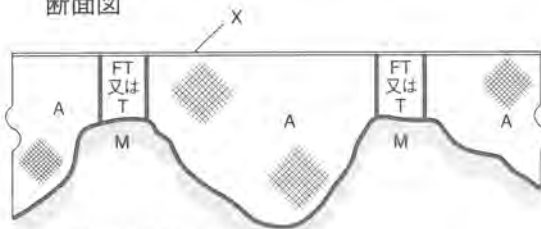
# 新人工降雨システム未来都市構想スタイル

平面図



天然地型利用型

断面図



天然地型利用型

凡例

- A = 上昇気流発生用人工遮蔽壁
- E = (C) (D) によって上昇させられた雨雲を作る湿った大量の大气
- e = 山と山、山脈と山脈を吹き上げて来る湿った大气
- FT = 未来都市
- M = 山又は山脈、岳、台地等
- T = タワー
- X = スチールワイヤー



(7) 新人工降雨システムとピラミッド

①ピラミッドは人工降雨目的だった

ピラミッドは四千年前に計画され建造された広大な人工降雨目的の建造物であると推定される。

ピラミッドは四千年前人類史上に偉大な文明を築いたエジプト、そこを流れるナイル川流域に大小六十基程のピラミッドが築造され現在もその壮大な姿を保っておりますが、中でも大ピラミッドは一辺二百三十m高さ百四十八mの四角錐で、ほぼ1m角の切石積、総個数二百四十二万個と算定され、建設に要した人数は述べ一億人と推定されています。

②ピラミッド―運命のシナリオ

ピラミッド築造を決意させたもの

四千年前のこのような国運をかけた国家プロジェクトが何の目的で造られたか、さまざまな形で大規模に説明が続けられて来ておりますが、未だその用途さえはつ

きり判明していないようであつて、現在まで世界中の誰からも明確な答えは出ていないようです。

ピラミッドは一般に王の墓と言われ、その意見が大勢を占めているように見えますが、他に葬祭神殿説、日時計説、ナイル川護岸用（テトラポット）説、天文測候所説、タイムカプセル説、など結果としての数多くの説が唱えられていて、これら何れの説も肯定できるものであるとも思われます。しかし、ピラミッド建設前の目的として考えるならばこの国運をかけ、国民の人智を結集し、国運を賭けた国家的大プロジェクトの建造物は、エジプト悠久の大地に永遠の降雨を希求し、国民総意のもと、国民的願望を込めて人工降雨をもとめて建造されたものであつたのです。

### ③エジプトの特性とピラミッド—四千年のねがい

エジプトの国土の広さは約百万平方キロメートル、その九十七％は砂漠であり、この砂漠には勿論砂原もありますが、大部分は普通の土であり、“水”さえあれば、直ちに立派は耕地になる土地でもあるのです。ですからここは昔緑地であつた証拠であると言えるかもしれません。エジプトはナイルのたまものと言われる程エジブ

トにとって重要なこの“ナイル川”は全長約六千七百kmその全水源は南緯四度のコ  
ンゴ山地から流出するカゲラ川を水源とした“白ナイル”とエチオピアのタナ湖を  
水源とする“青ナイル”及びエチオピア北部を水源とするアトバラ川ですが、これ  
ら以外エジプト国内からナイル川に流れ込む支流は一本もありません。

この典型的な砂漠気候地帯に属するエジプトの年間平均降雨量は全年二十一mmで  
東京の千四百六十mmに比べて、いかに雨が少ないかがわかるのですが、ナイル川の  
外側はすべて砂漠で森や林などほとんどなく、この砂漠の真只中にいる人々にとつ  
ての“水”の必要性は絶対であり、日本などモンスーン帯に住む人々にとって雨は  
めずらしくも何ともありませんが、砂漠に住む人々にとって、そしてエジプトに住  
む人々にとって雨の一滴は血の一滴であり、古代エジプトでは水不足により度々の  
飢饉におそわれたとも言われており、エジプト人の“水”に対する執着と憧れ、恐  
れは計りしれないのです。このように“いのち”であり、“神”そのものであった  
永遠の“水”を求める願望の大きさは計りしれなく、同じ続く大地にありながら、  
ナイル川の源流となる豊かな降雨に恵まれたアフリカ中部のコンゴ山地やエチオピ  
ア高原と、降雨に恵まれないエジプトの地との大きな相違点とを対比して、効果的

に配置されている山々の存在の有無が、大量の安定した降雨の有無を決定する大きな要因であると考え、降雨をもたらす原因となる、山々を自らで造ろうと決意し、国民的利益と願望のもと、民族と人類の将来を思い、国運をかけた一大国家的事業としてピラミッド群が築造され、遂行者として王はその精神と共に中心に埋葬され、ピラミッドと一心同体となり、自らも国民総意で願った降雨の成功を永遠に念じ続けていくのです。

その崇高な願いと事業は規模、形状、位置、自然条件など降雨に至らす条件が揃わなかったため、その志は未だ結実しておりませんが、四千年前のその方向や考え、理念はまことに正しかったのです。

#### ④ 新人工降雨システムとピラミッド―運命の共演

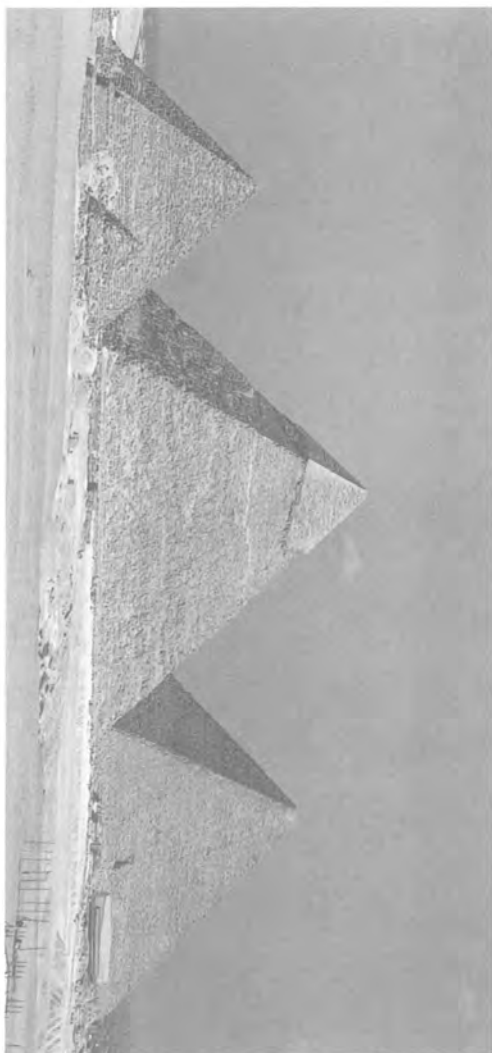
新人工降雨システムにより、サハラ砂漠、エジプトの天空に雷鳴轟き豪雨がピラミッドに注ぐ時、四千年前、「いのち」とも「神」とも希求した尊い永遠の水を得てピラミッドに眠る聖なる魂は初めて安らかに永遠の眠りにつくことでありましよう。

今こそ四千年の時空を超え、全人類が力を合わせ、英知を傾け、地球と人類の存亡をおびやかす「水」問題を永遠に解決し、先人が希求した、地球と人類の輝く未来のため、革命的な新人工降雨システムを必ず発展させねばなりません。

エジプト

ギザの3大ピラミッドと王妃のピラミッド

(人工降雨希求、壮大なる競演)



## カフラー王のピラミッドと大スフィンクス

(人工降雨希求、壮大なる競演)



## 人工降雨希求、壮大なる競演

メイドウムの異形ピラミッド  
(未来都市型)



ネフェルイルカラー王のピラミッド  
(自然の山型)





(8) 新人工降雨システムの必要性——人類の未来をになう

世界の人口は二〇五〇年までに三十億人近く増加するとされ、一方砂漠は毎年拡大を続け全世界で毎年六百万ヘクタールが砂漠化されているといわれ、これは日本の1/6の面積に当たり、又地下水位も年々低下を続け、これらの国々に暮らす人々も水資源に大そう困ることになります。

熱帯雨林も千七百万ヘクタール減少し、このままでは熱帯雨林が百年でなくなるといわれ、地球上の平均気温も現在は一五℃位ですが十年後は一七℃から一八℃ぐらいになるといわれ、まことに地球環境の悪化はすざましいものがあり、それが或る程度までいくと歯止めがかからなくなるかも知れません。地球環境の悪化は即大災害につながり、農作物にも重大な影響を与え、収穫出来る農作物の種類が違ってくることにもなります。地球環境の悪化は地球規模での“生活習慣病”とも言え、人類と地球に重大な危機となります。現在地球上での降雨は偏在状況にあり、最多のチエラブンジ（インド）では、二六・四六一mm/年、ワジハルファ（スーダン）では、1/3mm/年などとなっており、そして毎年世界各地で大洪水の被害

も多発している一方、少雨乾燥化も非常な勢いで各地で止めようもなく進行しております。『新人工降雨システム』により、地球上にバランスよい降雨を実現することによって、このような被害もなくすることが出来るだけではなく、地球環境全体に将来に亘り、そして永遠にきわめて良好に確保し続けることが出来るわけであり、これが確立すれば、今よりもう一つ、二つ、の地球が誕生した効果ともなるでしょう。今や地球規模で進行している『地球温暖化・酸性雨・熱帯雨林の減少・砂漠化・海面の上昇など地球と人類の危機がひしひしと、せまって来ております。

この新人工降雨システムが世界中で機能するようになれば、地球上の望むところは可能な限り常に緑に輝き、世界に真の永遠の平和をもたらすことであります。今こそこの新人工降雨システムを發展させ、荒れ果て拡大を続ける砂漠を緑の大地に変え、秃山も緑に世界から水不足を解消し、地球と人類の輝かしい未来のため、『新人工降雨システム』を総力をあげて發展させねばならないのです。

### 第3章 地球メカのロマン

#### (1) 山脈発生の原因と定説

地球上の各地に存在する山脈、特にヒマラヤ山脈のような高いけわしい山脈はどうして出来たのか、その発生の原因につきましても、地球が誕生してより相当な年月がたったので、年老いてシワが出来てそれが山脈となったもので、一名褶曲山脈と言われる時代がありました。

現在では、地球表面のプレートに乗った台地が水平移動して、激しく別の台地に衝突して出来たのが山脈となったというのが定説となっています。

ヒマラヤ山脈は、もともとアフリカの一部であったインド大陸がアフリカの台地と切り離され、地球表面のプレートに乗って移動して来て、アジア大陸に激しく衝突してその先端の高く盛り上がったところがヒマラヤ山脈になったということです。そしてヒマラヤ山脈の頂上の岩石は昔海底であった地層と同じであるのは、プレ-

トに乗ってきた台地がぶつかって、海底にあったところが盛り上がった証拠であるとのことです。或いは又、プレートに乗って陸の下にもぐり込んだ海底層や海底火山の岩が、陸の岩盤層を突き破って地表に出て来た地層や岩が地上で見られるとも言われています。

プレートに乗ってインド大陸がアフリカ大陸と切り離され移動して来たとすれば、移動に要する力はおそらく天文学的な巨大なものであったでしょうが、その力の根源は何でしょうか。そのように一方的に一定方向に押す力が、地球上にどのような理由で存在したのでしょうか。その原因は地下数百キロの深さにあるマンツルの熱対流であると言われていますが、何れそのメカニズムも具体的に明らかにされるではありませんしう。

## (2) 山脈発生原因の探究

地球上の山脈の発生の原因を別の視点から考えて見ますと、インド大陸がアフリカ大陸から切り離されてアジア大陸に接続したとすれば、その移動の方法は、地球表面のプレートにインド大陸の台地が、ちょうど台の上に荷物が乗って運ばれて来

たようにではなく、空気の残っているテントをたたむ時盛り上がっている空気の部分を押さえると、押さえた所はへこみますがその周囲の隣が盛り上がり、これが一定方向に続きますと空気が入って盛り上がっていた表面の部分、地球で言いますと山脈や陸に当る部分が順次に変わり、ちようど一定方向に移動したのと同じ結果となるようにです。(図Ⅱ参照)

このようにインド大陸がアフリカ大陸から離れてアジア大陸に接続したとしますと、ちようどこのような状況であったと思われるし、他の大陸の離合集散も行われたとしますと皆同じような事情であったと考えられます。

それでは、このテントを盛り上がらせたりへこませたりする力、インド大陸で言いますと、この台地を結果的にアジア大陸に接続させたのは一体どんな力が働いたからか考えてみたいと思います。

宇宙空間でバランスを保って存在している地球も、地球内部の質量の変化に伴い、地球自体のバランスを保つため常に内部のマグマで調整し、結果として地球表面を盛り上がらせたりへこませたりしてバランスを保っていると考えられるのです。

地球自身のバランスは地球中心部からの距離と質量を乗じた積が常に或る程度一

定であることによつて保たれているはずで。

地球自身がバランスを保つためには、地球中心点からヒマラヤ山頂のその地点までの距離とその間の質量の積が一定でなければならぬし、フィリピン海溝のその地点から地球中心点までの距離とその間の質量の積が一定であることが必要であり、この両者の積も大体同じであることが必要なものであり、そしてこのことは地球上のあらゆる地点でも言えることなのです。

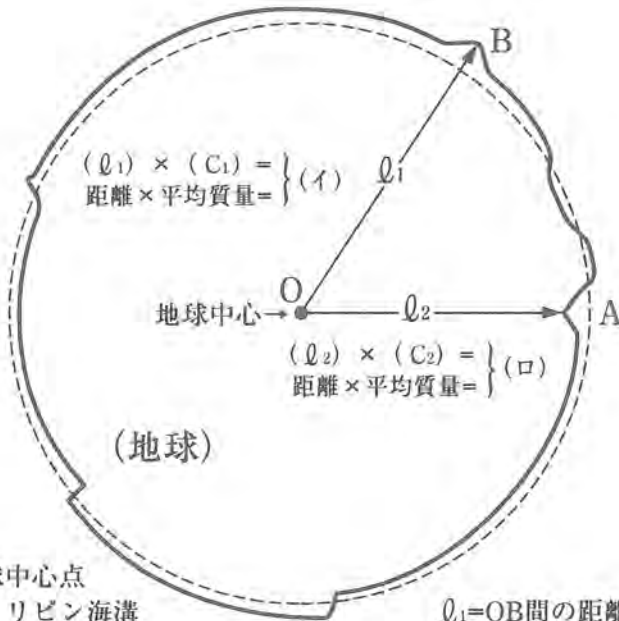
地球自身のバランスのためにはヒマラヤの部分が高い必要があり、或いは高くないといけないのでしようし、フィリピン海溝の部分が高い必要があり、或いは低くないといけないのだと思います。或いは又ヒマラヤ山脈のエベレスト山の頂点から地球中心点までの距離とその間の質量の積が、フィリピン海溝の一番深いところの地点から地球中心点までの距離とその間の質量の積が、地球自身のバランス上同じであることが必要ならば、地球表面の盛り上がったところ即ち距離的に長いヒマラヤ山脈頂点地点から地球中心部までのその間の質量のほうは距離の短いフィリピン海溝の最も深いその間の質量より単位平均とし小さいということにもなります。

言い替えますとヒマラヤ山頂から地球中心部までのその間に存在する岩やマグマ

などの物質の単位重量がフィリピン海溝のそれよりも軽いもので出来ていると言えるのです。

事実アルプスやヒマラヤ山脈の下部の地球中心部のマントル層に向かって入っている岩盤の深さは五、六十キロメートルであるのに対し、平野部のそれは三十キロメートル程度と言われています。

又地球の平均密度は五五と計算されていますが、地球表面の岩石の密度は二・九前後ですから地球表面の軽い部分



O=地球中心点  
 A=フィリピン海溝  
 B=ヒマラヤ山脈  
 (イ)=(ロ)が一定ならば  
 $l_1 > l_2$ より  $C_1 < C_2$

【図 1】

$l_1$ =OB間の距離  
 $l_2$ =OA間の距離  
 $C_1$ =OB間の平均質量  
 $C_2$ =OA間の平均質量

と重量的に地球のバランスを保っているのだと言えます（図Ⅰ参照）。

今後何千年か何万年かの後、ヒマラヤ山脈から地球中心部に至る岩石やマグマなどの物質の平均質量が、地球内部のマグマの変化等何らかの理由に伴い重くなれば、フィリピン海溝のように深い海の底になるでしょうし、反対にフィリピン海溝から地球中心に至る岩石やマグマなどの物質の平均質量が地球内部の何らかの理由により軽くなれば、海底が隆起してヒマラヤのような山脈となり得ると思うのです。

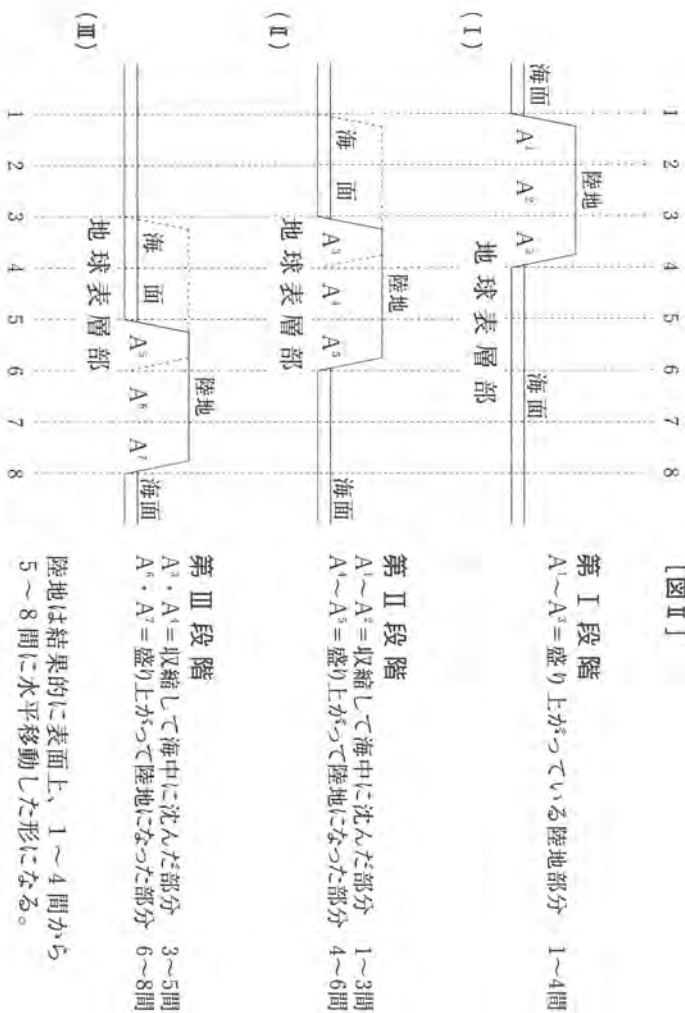
地球内部のバランスと言えば、毎年毎年河川などによって運ばれて海に入る、大量の土砂も、地球のバランスを考える上での無視出来ない要素でしょう。

このように、内部のマグマが移動したり盛り上がったたりへこんだりした長い年月の経過の中で、海底であったところが盛り上がってヒマラヤ山脈になったり、或いはインド大陸がアフリカ大陸から離れてアジア大陸に接続したりしたのであり、地球自身が自らのバランスを保つためのマグマの移動は常に続いていると考えられるのです。



## 陸地移動の過程

【図 I】



### (3) 海洋発生原因の定説と探究

地球上の海洋はどうして出来たか、海の水はどこにあってどこから来たか、ということに疑問を持つ人も多いと思います。テレビでも放映してりましたが、専門家の話によりますと、連続五百年間一日二十四時間、毎日毎日地球上に大雨が降り続き、その水が地球上の低いところのくぼみに溜まって海が出来たのだということ。連続五百年もの間毎日毎日地球に大雨を降らせた雨雲はいつたいどこにあったのでしょうか。はたまた、どうして出来たのでしょうか、これは地球創生上の大きなロマンですが、研究が進めば何れ科学的に解明されるであります。

或る時宇宙で大爆発が起きて、多くのいろいろな物質の破片が散らばりそして又それぞれが集まって無数の星が出来て、その星の一つとして地球が出来たとされていますが、その地球を構成した成分の物質の中に水、或いは水のもとになる物質の破片或いは惑星があつて、地球の自転や公転或いは地球重力との関係、月や太陽そして宇宙全体のバランスなどから、地球重力の及ばないものは吹き飛んで残ったものが海となったのではないかと思うのです。

そのようにして出来た海水は始めは塩分などあまり含まない真水に近いものであったでしょうが、太陽熱による蒸発、陸地などへの降雨を何百何千万年もくり返し、降った地域の成分が河川などによって海へ運ばれ現在ののような塩分や他の物質を多く含む海水となったのです。

そしてこのように地球生成時宇宙からもたらされた物質の中に、特に水の成分となった物質の中に現在地球上にある生命体の起源も含まれていたのではないかと考えられます。

#### (4) 生命起源・原因の定説と探究

現在の地球上の生命は数億年前に海に発生し、年月を経るに従って進化したとされています。

今、地球上の生物は、砂漠の中・最高峰の山頂・最深海の底・極地の海陸・そして特に温暖な地にと、地球のあらゆるところに数多く生息していますが、生物の常として、厳しい悪い環境のところから次第によい環境のところへ移って行くのが自然であると考えますならば、地球の温暖な、条件の整ったところで発生した生物な

らば、地球の極限の厳しい環境のところへ、環境のよいところから移って行ったとは考え難いのです。現在地球上のそういう厳しい環境で生息している生物は、地球生成時にもたらされた生命の起源であり、そこから独自の進化を遂げたものと思われるのです。そして又、温暖な条件のよいところへ移動しつつ進化したものが多かったことが想像出来ます。勿論地域によって多少は進化の交流もあったのではないかと考えられます。

#### (5) 石油・石炭・天然ガス発生原因と探究

石油は地球上の生物が堆積して長い年月を経て石油となったものとして、化石燃料とも言われ、石炭は地球上に生い茂った樹木などが堆積して長い年月を経て出来たものだと言われております。

しかし、石油や石炭の産出状況などから見ても、宇宙が大爆発を起こして多くの破片や惑星が出来、それらの多数が集まって地球が誕生した時、地球を構成した星の団塊の幾つかが石油の成分であったり、石炭の成分であったり、或いは又天然ガスの成分であったのであって、地球誕生時に宇宙よりもたらされたものなのだと

考えられます。

現に地球の中心部には無限とも言うべき量の天然ガスが眠っているとわれれておりまして、現在地上近くで発見され、採取されているのは、その一部が地中の地層や岩の隙間などの地中を伝って地層に溜まったものであると言われております。

もし石油がもとと地球上に存在していた生物の死骸が堆積して発生したものであれば、それを燃やしても、もとの成分にもどるわけであるから、ダイオキシンのような地球にきわめて有害な物質が出ないはずだと思います。もっと地球になじむやさしいものであるはずだと思います。

地球誕生の時、石油の成分を持った星・石炭の成分を持った星・ガスの成分を持った星・岩石の成分を持った星・水の成分を持った星など大小さまざまな成分を持った星が合体して地球を形作ったとも考えられ、地球創成時に生命の源も物質もすべて宇宙より直接もたらされたものであると思うのです。

(6) 水は地球生命の恩人

地球上の動植物は全て水なしでは成長もしないし勿論生きてはいけません。この

ように水自体の存在は生物にとって絶対のものでありますが水の性質も又、こんにち地球上に存在する動植物にとって重要であつたのです。

水は液体で流動的であることも大切な要素ですが、温度が變つて、氣體、液体、固体になつた時の性質が重要な意味をもつことになります。一般に多くの物質は、氣體、液体、固体の順に重くなつて行きますが、水は固体（氷）になれば液体（水）に浮きます。このことは地球の動物、植物にとつて非常に重要な意味を持つのです。

もし、氷が水に浮かばなかつたならば、真つ先に南極、北極から凍つて来た水が氷となり、次々と海中に沈み、それが何万年何百年もの間続くうちに海中を底のほうから水で埋めつくし、地球の氣候、環境に大きな影響を及ぼし、結局、わずか赤道直下附近の表面ぐらいいしか動植物が存在出来なくなつていたに違いありません、そのようになつていれば、勿論今の地球上の狀況が一變していたことは間違ひありません。

#### (7) 生命進化の探究

生物進化の方向は一見簡単な理由で決まることもあるようです。鳥などのメスは

自分の好みに合い気に入った姿や形・声・巢などをもったオス或いは力の強いたくましいオスを選び、その子孫が残されて来ましたが、このように地球上の生物はメスがオスを選ぶことが多く、そのためメスに気に入られたオスの子孫が優先的に残って行って進化を遂げて来たと言えます。

結局生物の世界に於て、メスの気に入った形での進化、メス主導の進化が多く行われて来たと言えます。

そしてまた、現在地球上に生息する生物は、機能的にも、あらゆる面から見ても非常にうまく出来ているといわれていますが、見方を変えれば、生息している環境、或いは生息して行かねばならない環境に適応したもの・適応し得たもの・適応した形のもの・適応した形になり得たものたちがこんにちまで生き残り、栄え、進化して来たものと思われるのです。

土地は自分に合った植物を選ぶといわれますが、環境もまた自分に合った動植物を選び、自分に合った動植物を作って来たともいえるのです。

## 第4章 社会イノベーション

### (1) 国民・政治・行政の関係

国民と政治と行政の関係は我々の身近なことに例えますと、自分の建物を建築する時の、建築主と設計監理者と施工業者との関係に見立てることが出来ます。

一般に建物を建築する場合、発注者たる建築主と、建築主の委託を受け計画設計工事監理を行う設計者と、そして実際の工事を施工する建設施工業者がありますが、これを国の運営にあてはめて見ますと、建築主は国民であり、設計監理者は政治及び政治家であり、工事施工業者は、実際の実務を行う行政及び役所役人と見ることが出来るのです。

(建築主)たる国民は生命財産を守り福祉生活などのためお金(税金)を出し、国民(建築主)の委託を受けた、政治家(設計監理者)は、研鑽を重ね、すぐれた政策立案設計監理(計画設計工事監理)能力を備え、国民(建築主)の諸条件と要



望を基本に、国益に沿い総合的に判断して合理的にベストの政策立案設計（計画設計）を行い、行政役所役人（工事施工実務者）は政治家（設計監理者）の政策設計（設計図書）に基づきその指導監理のもとに協力して政策を實行（工事完成）し国民（建築主）の付託と期待に応え成果を納める義務があるのです。

国政がこのような形で正常に行われていてこそ真の民主主義国家と言えるのです。政治家（設計者）不在の工事は、行政役所役人（工事業者）単独の政策立案実施（設計施工監理）となりチェック機能に乏しい国民（建築主）は行政役所役人に任せきりの行政ベースとなり、大所高所の国民（建築主）サイドに立った政策実行（工事）が難しくなります。

よい建物を建てるためにはすぐれた設計者といふ工事業者が必要です。国政にも又これらに当てはまる設計者としての政治家、政治家、工事業者として行政役所役人とかしい国民（建築主）の存在が真の民主主義国家に必要な不可欠となるのです。

(2) 安くて便利なミニ空港

① あなたの街から飛行艇で中距離観光日帰り旅行

ちかごろ日本各地でコミュニティー空港、ミニ空港があちら、こちらに数多く作られています。最近では地方に行く程快適に整備された道路があり、一家に一台どころか一人に一台の自動車を所有する家庭も少なくなき、その上新幹線を始めとする鉄道・フェリー・バスなどの交通機関も発達していますので一日に数便のしかも運賃も割高の空の便を利用する客も少なく、そのため補助金まで出して社会体験とやらいうことで、小学生を団体で乗せたりしている程、せっかく便利にと作ったものの、これらのミニ空港の経営も楽ではなさそうです。このままでは何時さびれて廃空港、休空港になるやら知れず、そうなれば投入した多額の公費がもつたいないものとなります。このようなお金があるならばもつともつと大事な将来へのインフラ整備とか、他にいくらでもやってももらいたいことがあると思うのが国民のいつわらざる気持でしょう。

しかしミニ空港が是非地方に必要なものならばもつと自由な発想で空港作りを

考えて見なければいけないと思うのです。

例えば、日本は海の国であり、各地に湖や大きな池や沼そして川がたくさんありますが、これらを有し、或いは面するところはミニ空港として水上で発着出来る飛行艇即ち水上飛行機の利用を積極的に活用するように考えればよいのです。

これならば空港建設費も地上に建設するのに比べて、土地の買収費も造成費もいらないのです。漁業補償などいくらかの問題はあるかも知れませんが、随分と建設も楽だと思ふのです。騒音の問題も離発着場所が街より多少離れるので或る程度解決出来ますし、空港の位置の移動・廃止・変更も必要に応じ、けっこうたやすく自由出来るはずですから、日本の国情に合ったミニ空港が出来ると思うのです。

いまの飛行艇は陸上でも水上でも離発着でき、しかも短い滑走距離で大空へ飛び立てるようになっており、海難救助や離島の救急患者の搬送などに活躍していて、艇体の周りに波消し板を取り付け離着水時の波による衝撃を押さえ込み、波高四メートル前後までの海面での離発着が出来るので、余程な例外を除き波の荒い外洋でも活動出来、海上沖に着水して、陸地まで、或いは川を逆上つて接岸し、行動範囲を広げ、街から街へ利用者に、より隣接して利便を提供することが出来ます。

これにより、近年盛んなバス日帰り観光旅行のように、飛行艇観光旅行など組めば、あなたの街からあなたの街へ早くて便利、手軽で簡単な比較的遠い所へのミニ旅行も楽しむことが出来ます。関西からなら北海道や或いは沖縄ぐらいまでの飛行艇日帰り観光旅行も可能となり、又離島、過疎地へも手軽に行くことが出来るなど、利用者の利便と共に、国家及地方の発展に貢献します。

飛行艇の発達には又緊急時の、大地震、水害、大火災時等の救助や物資輸送、海難救助等に大きく役立つことでしょうし、飛行艇製造産業の発展にも寄与するものと思われまます。

## ② 飛行艇で日本列島海岸定期周遊便

海にかこまれた日本列島周辺沿岸海域一周の飛行艇による定期周遊バスなど出来れば、観光・ビジネスなどに利用出来る新しい早くて便利な交通体系が出来て地域発展にも大いに役立つのではないかと思えます。

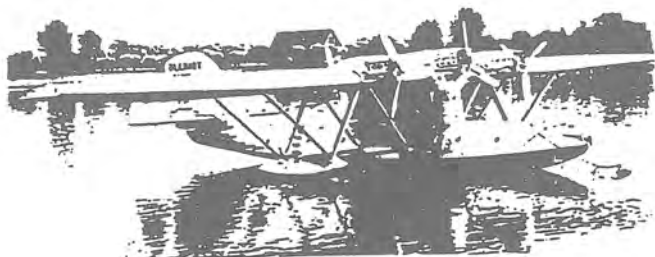
世界中には日本と同じく、海や湖や川にめぐまれた国が多くありますが、日本が世界にさきがけて飛行艇による交通システムを開発発展させ世界に広がることを期

待したいと思えます。

そして世界中の安い便利な飛行艇による交通システムの発展により、観光・運輸・交通の発展と共に経済も豊かになり、世界恒久平和に大きな貢献を果すことになるのです。

## 安くて便利なミニ空港用 飛行艇 各種

プレリオ5190サントス ジュモン飛行艇



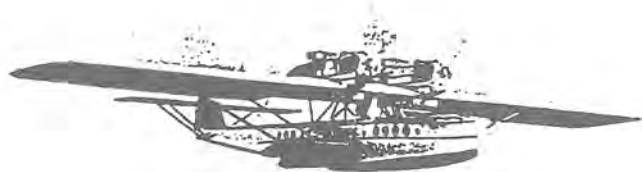
新明和 US-1A型



- ①すぐれた性能により、荒い海に着水して、救難活動が可能です。
- ②長い航続力を持っており、長時間にわたって広域捜査及び救難活動が可能です。
- ③水陸両用であるため、空港設備のない離島の救急患者や海上避難者を救助して陸上空港に着陸し速やかに病院に送りどけることができます。

安くて便利なミニ空港用  
飛行艇 各種

ドルニエ DOR スーパーワール飛行艇



ホールXP 2H-1 飛行艇



### (3) 高くマズイ上水道

いま日本の都市での生活用水としての上水道水源の大半は河川の水にたよっており、その取水口も河川の中流あたりか下流附近に集中しています。

上水道用水源としての河川に流れ込む流域の環境も以前のように田園風景的なものは少なくなつて、都市化が随分と進んで来ておりますので、その地域一体から流れ込む水も年々悪化の一途を辿り、特に渇水期などには流域の都会のすべての汚れを洗い流して来たような雑水を漉して、上水として利用しているありさまです。このように都市排水などの大量にまざつた水を取水して常時飲料用水の源水とするのには次第に無理となつて来ております。これを浄水とするのには大量の硫酸バンドや塩素による滅菌も必要となり、残留塩素による有害なトリハロメタンなどで利用者の健康にきわめて悪影響を与え続けることとなり、人体は一時的にも小さな虫や、目に見えないダニなどにさされてもひどくはれたりして少なからずダメージを受けますが、毎日毎日その安全確認をしてはしてはいるというものの、トリハロメタンや食品添加物、薬物など、採り続けるとよいわけはなく、長い間の年月に知らず



知らずのうちには體質をむしばみ、予期せざる病や奇病の発生につながり、個人の体力の低下は即国力の減少を招くことになり、このようなことを何世代も続けますと体的に全くヒ弱な民族が出来てしまう恐れがあります。

都市部生活者のこのようなおそれを考える上水道利用者の中には地方の銘水と言われる自然水をボトルや宅配便にて購入して飲料専用に使っている人が多いのも事実です。

又家庭用浄水器を、いち早く使い出したのも上水道施設関係者だった、という話もあるが、ち誇張ではなさそうです。

地方でも稲作用の灌漑用水に各家庭などから流れ込んだ合成洗剤が入っていると、収穫した米は非常にマズイと言われる程植物も汚れた水には敏感でよく知っているようです。

上水道供給者も臭いと言われる水の解消のため、上水道原水の高度処理方法を行っているようですが、何百万人、何千万人の人が毎日毎日大量に使用する上水道を完全に浄化するため高度処理を行うともなれば手間がかかるし費用も又莫大なものとなり、その分利用者の負担増となって来るであります。上水道原水を高度処理

しても、臭いとか健康に害を与えない常にはほぼ完全に有害物質を除去することは不可能であると思われるのです。

大人一人の一日の上水道計画供給水量は二百リットル程ですが、そのうちの純粋の飲料水即ち人間の口に入る水の量は、ほぼ二リットルで、その百分の一以下でしかありませんが、更に上水道水は飲料用だけに利用されているのではなく、浴用・洗濯用・便所排水用・散水用など、およそ家庭で使う水のほとんどは上水道水でまかなわれていますが、これらの水の総量は日本全国では毎日2千万トン以上になると見られ、このような水まで高度浄水に使うのは非常に無駄であり、不合理であり、これが永遠に続くことはあり得ずもつたない話だと思ふのです。

#### (4) 安全で健康第一の上水道

文字通り人間の生命の源としての、特に都市部などの上水道原水を河川水に求めた時代は、まだ今のような都市化が進んでおらず、それらの河川に流入する流域からの水も上流の原水とあまり変わらない水質であったのかも知れませんが、現在のそのような流域環境から飲料水の安全を守るためには、飲料水用上水道水取水口をもつ

と上流部に溯つて設けるか或いは上流が湖であれば湖の上部の澄んだところから直接取るようにして、取水した水を広い河川敷を利用して太い原水管を埋設し、在来の既設浄水場まで導水してくるのです。そしてこれを飲料水専用とすれば勿論高度処理も不要となり、利用者も安心して飲めるのです。そして現在の取水口から採取した水は中水道用としてもっと簡単な処理をして一般で利用すれば安く大量に利用出来ますし、中水道となれば水源の選択肢も広くなり、あまつた農業用水・各種再利用水・直接雨水など多方面に求めることが出来るのです。

この方式を近畿地方阪神地域の太上水道源としての淀川を例にとりますと、ここでの上水道水取水口は相当下流附近にあります。自動車道にすれば片道七車線も取れるという広い広い河川敷に、上流或いは琵琶湖の最湖北あたりの水は手でそのまますくって呑むことが出来るという程綺麗な水であるといわれていますがこのような綺麗な水のところに設けた取水口から、太い原水管を埋設して、それから直接飲料水用の上水道原水をとれば、半永久的に高度処理など必要のない健康的な飲料水を常時安心して安く飲むことが出来るのです。

又飲料水専用なればそれぞれの地方の湧き水や深井戸などからの水を利用する

のも良策となります。

このようにすれば残留塩素によるトリハロメタンや、特に雨期などの雨の多い季節時の泥水の多く混入した上水道原水処理の時、大量に投入される硫酸バンドの残留などによる複合汚染から国民の健康を守り、安くて安全健康によい飲料水を永久的に供給出来るのです。常によごれた原水を高度処理するには、莫大な設備と費用が常時必要ですが、上水道の取水口を、上流の水の綺麗なところに持つてくる方法は、一時の投資ですむわけですし、生命の水として国民の健康に及ぼす効果ははかり知れないのです。

このようにすれば、今後毎年各地で予想される慢性的水不足にも適切な手段も取り易くなる筈です。国鉄・タバコ・塩そして電信電話など、かつて国营であった日本の企業も次々民営化され、合理化を果しつつあります。上水道改革のためには、水道事業も欧米のように民営化することもそろそろ考える時が来ているのかも知れません。

或いは又一つの方法としましては、飲料用上水道事業のみ今まで通り公営とし、中水道・下水道は民営とする方法もよいかも知れません。

中水道と下水道に分けるといふことになり、もう一本の給水ルートが必要となる場合は、今都市化の中で進められている共同溝内に納める方法とか、或いは下水工事の下水管埋設時に一緒に給水管を埋めるとか、合理的に実現するためには、上水・中水・下水の総合計画のもとに行うことが必要となります。

当分の間、今の上水道を中水道専用とし、中水道・上水道の二つの給水ルートが完成するまで、飲料用水は宅配又は取りに行くようにするか、中水道を家庭用飲料水に浄化する装置を各戸個々に取り付けるといふ方法も考えられます。

#### (5) 高速道路 鉄道に同時施工の巨大共同溝

##### ① 巨大共同溝で日本列島血液サラサラ

日本の国土面積はアメリカや中国、ロシアなどのように決して広大ではありませんが、しかし鉄道や高速道路網は相当密に全国ネットに張りめぐらされており、高速道路建設工事は今も日本各地で進められています。

この全国ネット建設網工事を単に交通のみの利用に止まらせず、例えば高速道路建設の時、同時にその下部などに大きな共同溝を一体として建設しておけば、その

中に上水道主管・中水道主管・下水道主管・各種ガス主管・石油運送主管・高圧電  
気ケーブル線などその他配管などするのにたとえ少々迂回や遠回りになっても有利  
となり、いつでも簡単に収納することが出来るのです。

このように多目的共同溝を、高速道路建設工事の時同時に高速道路の下部などに  
鉄筋コンクリートで作れば地盤も強化され、双方一体化して構造体もより強固とな  
り、盛土、埋戻しなども少なくてすみ、工事費も割安となり、土地の有効利用とも  
なりますし、一度作れば半永久的に使用出来るし、増加工事費は共同溝利用者から  
徴収すればよいのです。

このようにしますと、部分渇水時に於ける上水道・中水道などの都市間の融通も  
スムーズに出来ますし、一部分的な水不足問題なども解消し、非常災害時の消防用  
水の確保や上水道の給水にも役立つのです。そして郊外や都市から高圧電線や鉄柱  
などが消え、それらの保守点検も容易となり、石油やガスの少なくとも基地間のト  
ラック輸送がなくなり、交通渋滞や公害の解消などにも大いに役立つのです。

又このような共同溝を鉄道の新幹線や地下鉄などの建設時にも同時に併せて造っ  
ておけば、掘っては埋め埋めては掘り、などというムダな多重投資や工事に伴う交

通渋滞なども避けることが出来ますし、高速道路工事下での一石多鳥の効果で同時建設出来る共同溝と同様な役割が期待出来ます。これらがもしすぐにルートとして完成し使用しなくても部分ルートとしても使うことも出来ますし、或いはもっと部分的に多目的備蓄倉庫・駐車場・災害用水槽などのほか場所によっては事務所や店舗にも供用出来ます。それぞれの使用料を徴収すれば建設費も充分以上に回収出来ると思ふのです。

このようにして、日本全国に幹線巨大共同溝ルートが出来れば文字通り輸送も含めた日本の大動脈となり強大なライフラインが縦横にめぐることとなります。このようなルートが出来れば必要に応じ北海道の上水などを渇水期などの時九州まで、このルートを通じ送ることも決して夢ではないのです。

このように、せまい日本の利点を有効に生かし、予想し得る将来の問題点を見つけた国家国民的総合計画が行われねばならないのです。

事業者から単事業毎の要求を受け予算を付けて個々思い思い別々に事業を行って来た今までの方式では高速道路工事と共同溝の同時施工というような複合目的をもつた事業は出来ないのです。

先ず、国民から信任された政治が総合的な判断のもとに全体計画を策定し、必要事業を決定し、適切な実務者或いは事業者を定め予算を与えて行わせる方式でないと個々の部署が別々にやっていたのではきわめて至難なことなのです。

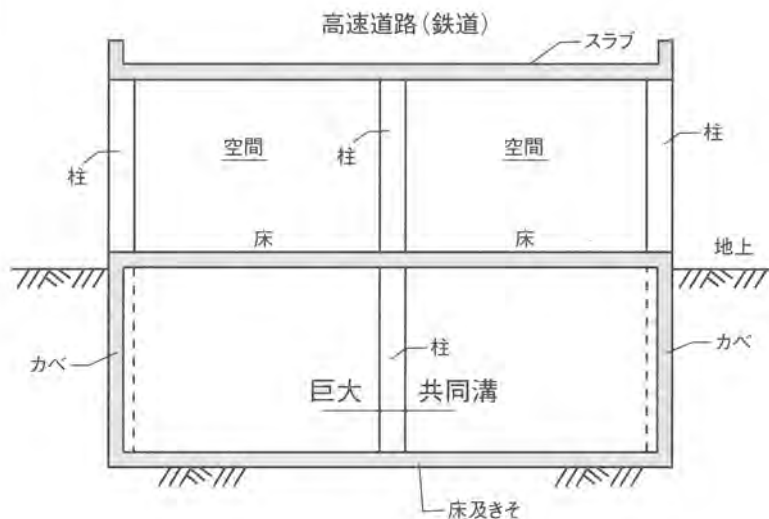
今、日本では何本もの長大橋・長大トンネルなどが建設されていますが、それらの建設費に比べて見てもその実現には決して難しいものではないと考えます。難しいとすれば困難は人間の心の中にあるのです。

## ② 巨大共同溝で日本のインフラ革命

基本的な社会基盤となるものは、単に一つの目的のためだけの投資ではなく、将来を見すえた総合計画の中で、複合機能を考慮して建設されるべきであると思いません。万里の長城を見ていますと、何時の日か自動車が行らなくなった時、高速道路は一体何に使われるのだろうかと思ってしまうのです。たとえそのような時代になつたとしても、複合目的をもって作られていけば何世紀にも亘って有効に機能し続けるに違いありません。国際的モデルとしても是非成功させてもらいたいのと思いません。



高速道路(鉄道)建設時同時施工  
日本列島縦横断、多目的巨大共同溝

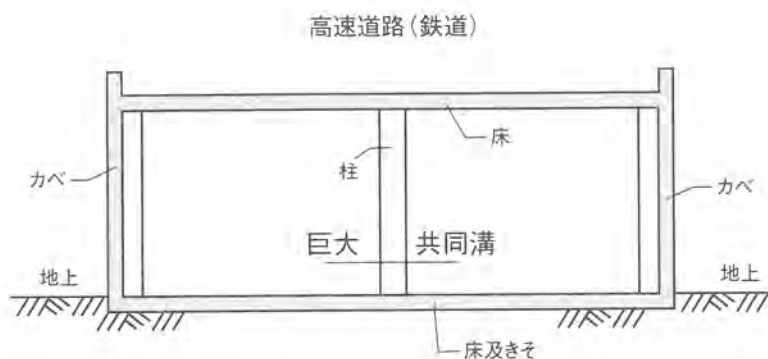


断面図

巨大共同溝内に納めるもの(24時間セキュリティ)

- 上水道主管
- 石油主管
- ガス主管
- 高圧電線
- 各種ケーブル、ファイバー
- エアシューター
- etc

# 高速道路(鉄道)建設時同時施工 日本列島縦横断、多目的巨大共同溝



断面図

巨大共同溝内に納めるもの(24時間セキュリティ)

- 上水道主管
- 石油主管
- ガス主管
- 高圧電線
- 各種ケーブル、ファイバー
- エアシューター
- etc

(6) 世界恒久平和の基礎

世界中から争いや戦争を恒久的になくすには、世界各国が製造産業至上主義から脱却して、各国がそれぞれ得意の分野で繁栄して豊かになることです。それには、世界各国がそれぞれに製造産業の得意な国は製造産業を主として発展させ、観光産業も併せて豊かになり、観光産業の得意な国は観光産業を主として発展させ、製造産業と併せて豊かになって行くことが、核や武器を必要としない、世界恒久平和の基礎だと思ふのです。

これからの時代は作（造）るオンリーの時代から作（造）ったものの使い方を考へる時代となりつつあると言われていますが、観光産業はその集大成とも言えるものです。何をどう作（造）るか、作（造）ったものをどう使うか、選択の時代となりつつあると言えます。昔作（造）ったもの、自然が作ってくれたものなどを有効に利用した観光省なども設け、観光を国是としている国も数多くあります。

一昔前の農村部の人々誰もが皆経験した機械力を使わない農業労働をすることに比べれば、他のどのような労働にも耐えられたのです。命をかける危険は伴うとしましても、兵卒となって闘うことすら、このような農業労働することより楽であつ

たのです。貧しさこそ、平和最大の敵です。はてのない、苦しくつらい希望のない仕事、悪しき環境からの解放こそが、地球上から争いや戦争をなくす最も重要なことなのです。このため世界の先進国は、発展途上国の観光産業発展のためのシステム作りをサポートし、経済自立に手を貸すことが必要です。

このことは又、一国内についてもあてはめることが出来ます。製造業を得意とする地域地方・県などと観光を得意とする地域・地方・県などがそれぞれ得意の分野を發展させ豊かになり、権力・富なども分散させ、中央依存の一極集中の弊害も自然になくなった時、真の民主主義、真の地方分権が実現するのです。

日本は戦後、国としても、国民生活に於ても、戦前に比べて飛躍的に豊かになったことは間違いありません。その原因はいろいろありましたが、大きな要因は公経済の比重は高まりつつあるものの、自由主義経済を貫いたことにもよりますが、一方何よりもまず、今まで戦争に使っていた国家のエネルギーを平和オンリーに振り向けた力が大きかったのです。若いすぐれた労働力が軍隊に吸収されてしまい、それだけ生産力が低下するということだけ考えても平和は貴重なものなのです。

郊外に出れば家、家、家の海、高速自動車道が四通八達し、都心にはビルが林立し街は整備され、老若男女を問わずファッションブルに小綺麗な服装に身を包み、

テレビ・映画・スポーツなどの娯楽にも事欠かず、食も豊富となりました。今まで戦争に使っていた国家的エネルギーを平和の方向に振り向ければ、天然資源の乏しい国が、無残な敗戦から立ち直り世界第二の経済大国ともなれることを日本が世界に立証したのです。金持ち喧嘩せず、その日本が戦争を起こす気のないことは世界周知の事実です。

今後世界各国がそれぞれ産業立国、観光立国を発展させ、平和の基本条件としての各国民一人一人が豊かさを手中にすればその時こそ、真の世界恒久平和が実現するのです。

## 第5章 日本と日本人スピリット

### (1) 青少年のライフワーク

戦後の学校教育の最大の功績の一つに学校給食の充実があります。これにより小学生が栄養面での人生のスタート期のハンデをなくせたことは、あらゆる面で極めて大きな効果がありました。末は博士か大臣かと言われた一昔前と違って、現在の青少年が目ざす将来の目標は多くて定めにくい時代と見受けられますが、幼稚園時代から熟に行きいわる有名大学有名企業を目ざし、安定した人生を志すのも理解出来る選択のひとつではありましようが、その青少年達の中の千人に一人、或いは万人に一人でもよい、それらと違った志向の、出来るだけ多くの全世界の人々に幸をもたらす半永久的な「システム」を作る仕事を、自分の人生をかける意気込みでやってもらいたいと思うのです。

若き日の、人のため世のため努力し流した汗と涙は、のちのち生涯の血となり肉

となり炎の糧となるのです。

## (2) 地震予知システムの研究

日本を始め世界中には地震の多い国がたくさんあり、一度大きな地震が起これば人的物的被害も莫大となり、被害者は悲惨の極みとなります。地震そのものは天災ですからなくすことは不可能でしょうが、地震の起こる確実な原因をつきとめ、地震予知が確実に出来るようになれば、対策が充分に出来るので被害も最小限に抑えることが出来るのです。地震予知は地震多発国日本に於て特に重要なことですが、残念ながら未だ確実な予知がされるに至っていないのです。そこで、地震予知は先ず本震があった後の余震予知から初め、その正確度を高めてから本震予知に進めばよいので、確実な余震予知が出来ない段階で本震予知はおぼつかないであろうし、それによって現在の地震発生の原因の正しさやそれを根拠にした地震予知の方法の正しさがわかるであります。何れにしてもこれまでの地震に対する考え方に拘束されず、全く新しい自由な発想でこの重要なテーマに取り組み、成果をあげて一日も早く確実な地震予知が出来るよう、志あるすぐれた日本の青少年に大いに期待

したいものです。

### (3) 漢字の合理的簡略化

我々日本人が使う漢字は一字一字それ自体に意味を持っているので表音文字と違った味があるのですが、時代の移り変わりと共に、画数の多い難しい、おぼえにくい漢字の放置は、カタカナ外来語の氾濫などをも引き起こし、日本文化の混乱を起すこともなります。

この際複雑な画数の多い漢字は原字体の感じを出来るだけ損わないよう画数を出来るだけ少なくして簡略化する必要があります。

画数の多い漢字簡略化の方法として、広く全国から懸賞金付で各字毎に簡略化案を募集するのです。高齢化社会の時代ですから、リタイヤした人々などから多くのすぐれた案が集まることは間違いありません。

これにより多くの複雑な漢字を簡略化すれば、社会でのあらゆる面での効率化が出来ますし、複雑な漢字をおぼえたり、書いたりするムダな労力が将来に向かって節約出来ますし、外国人も日本語・日本文化を理解し易くなり、日本の国際化もま



た大きく前進するのです。

カナ文字は漢字を基本として生まれたものでしょうが、微妙な、きめ細かに言葉の表現が出来るカナ文化が日本社会の発達に果たした功績ははかり知れなく、先人の偉大な知恵でありましたが、複雑な画数の多い漢字の簡略化を平成の漢字改革として是非成功させてもらいたいものです。

画数を少なくして簡略化した漢字は一時的には不自然に感じるかも知れませんが慣れれば便利になるものです。人間社会は結局慣れの問題です。一昔前まで漢字の鐵という字は今鉄と書き體は体と書いていますが、何等不自然に感じないどころか、かえって今の時代に合った漢字となっています。もし日常使う頻度の高い鐵に鐵の字がなかったら、画数の多い複雑な鐵の字をいつも正確に書ける人は少ないでしょうし、勢い多くの人々はテツと書くでしょうし、益々漢字離れが進みます。漢字を守るためにも画数の多い多くの漢字は時代の変化に合わせて合理的に簡略化すべきときであると考えます。

#### (4) 国民自立の方向

いま最も大きな社会問題となっている、アスベスト、薬害問題などに対し国や県・会社及びその幹部の人たちが重大な責任を問われていますが、被害を或る程度事前に予見し或いは予測されていても誰も止めるものがいなかった、誰も止められなかったというところは何ともいえない非常な無気味さを感じるのです。

現実に被害を与える予測を一番早く確実にわかるのは、最も身近にいる現場担当者であり、その上司であるはずです。被害が出ることを予見出来た最初の段階で職を賭し体を張ってでも回避する手段をとらなかつた或いはとれなかつたということに何ともはがゆいやりきれなさを感じます。

外国ではこのような場合一職員が体を張って阻止し、被害を最小限に喰い止めたという例も聞きますが、こちらではそれがなかつた理由はいろいろあるでしょうが、一つには最近の日本人のおとなしくなつた保守化傾向が考えられます。ちかごろ殆ど見られなくなつた労働者のストライキや過激なデモンストレーション或いはかけをひそめた学生運動などその一つの表われでしょうが、デモやストそれ自体は決し

て好ましいものではありませんが、自ら正しいと信ずる道を貫く人間の本能的な闘争心が消えた姿に一抔の寂しさをおぼえるのです。

各個人が保守的になつて行くのは生活の豊かさ指向がなせるわざかもしれません。多くの人は住宅購入などで多額のローンを抱えるなど経済的に自分が縛られることが多く、他の不正や不条理がわかり正義感に燃えてもローンなどのことを考える無理をしないで不満もついガマンしてしまい、物事を正す大きな力となり得ないのかもしれません。

もっと個人個人自分に合った余裕のあるマイペースレベルでの経済生活や豊かさを求めるよう心掛けて、それでいて正しいつわりのない自分の信ずる正義をいつでも貫ける人生を歩むように心掛けることが、本人自身のためでもあり、結局健全な国家社会を築く源ではないかと考えるのです。

#### (5) 法律と宗教

一般に人は法律により保護されようとし、権力者はそれを利用して一部受益者の要望を取り上げるような形で巧に立法化し、それを武器にし逆手を取るような形で、

法律で民衆を合法的に服従させ統括して来ましたが、立法化により保護を求めに来る人々も結局その法律により、廻り廻って自分を縛ることになり、自縄自縛となっている場合がよく見受けられます。

日本人は宗教的規範が少ないから、法律にさえふれていなければ悪いことではないという意識が強い面がありますが、たとえ法にふれていなくても、落語に出て来る人物で長屋の八ちゃん、熊さんのような普通一般の市民が体で感じる、法にはふれていなくても、どうも、おかしいで、というようなことは悪いものは悪いとして正しく処置されるべきで法さえ犯していなければ何をしてもよいという考え方は明確な規範のもとにあらためていかねなければならないと思うのです。

#### (6) マツタケと公経済

自由市場主義経済原則のもとに発展して来た日本も、原則を補完する非市場主義的公経済が日本の経済全体の半分以上となり、創意工夫を前提とする純民間経済が半分以下の状態となりました。

庇を借して母屋をとられた如く自由市場主義経済の母屋も際限なく増大し続ける

公經濟の底の重みに耐えかねバランスを失って傾きつつあるようです。

他国に比し諸事物価高の日本庶民は一円十円の安価を追い求めてスーパーに走り、新幹線の特別車、高級ホテルなど民間ビジネスマンは身銭を切って出張などに利用しないのです。これらは、何れは崩壊するこのバブルのような日本經濟の半分以上を占める公經濟に支えられているのでしよう。

毎年シーズンになつても高嶺の花のマツタケやマツバガニ、高値であり続けられるのは自分の腹のいたまない金で偉い人への進物用を買う人がいるためで、いわば公經濟に支えられた価格であるといえるでしよう。

マツタケが正常な価格になつた時、日本經濟が正常化し日本社会も健全化したといえるのではないかと考えるのです。

#### (7) 米不作年の人材

ちかごろは農機具や肥料などもずいぶんとよくなり、農業技術も発達したので、余程の天候不順でないかぎり作物の出来不出来の波は少なく、米などは毎年豊作が続いています。一昔前は農業をとりまく状況も悪く、少しの天候不順にも影響を

受け、虫害なども伴って大凶作と言われる年もしばしばありました。しかし、米などは不作凶作と言われた年にとれたものは蛋白質やカリウムの含有率が多く反対にデンプン質の密度の低いことが知られています。日本酒を造る酒造米も不作の時の米のほうがよい酒が出来ると言われています。

その不作の時に子供が生まれ離乳すれば、当然これらの米穀類を食するでしょうが、この子供等は、豊作年に生まれ澱粉質の多い、蛋白質やカリウムの少ない米穀類を食した人々と違った才能や体力を持つ場合もあるのではないかと想像出来ます。

各地方の人々の気質や才能体力なども、生まれ育ったその土地の風土と共に、生まれた年の気象状況や米穀類などの、作物が豊作年であったか凶作年であったかということにも大いに影響を受け、その土地やその時代特有の性格や体力或いはすぐれた能力の人物がまとまって出るということにも大きく関係するのではないかと考えられます。

(8) 駐車違反ゼロの決め手

自動車で道路を通行中、路肩に止めてある、円滑な交通をさまたげ交通事故の原

因ともなっている車程憎いものはありませんが、それが不法駐車ともなるとなおさらです。

幹線道路沿いなどの商店・銀行・事務所・駅などの前面道路が特に不法駐車が多くなる場所ですが、駐車する者の心理として駐車違反の場所に一台も止まっていなところには違反を知らながら一番初めに不法駐車するのは少々気味悪く勇気の要るものですが、自分が止める以前に一台でも他車が止めてあるのを見ると仲間がいると思つて何となく安心？ して止めやすくつい駐車してしまう傾向となります。

駐車違反をなくすには、何としても官民の協力が不可欠です。そこで駐車禁止道路に面した商店・事務所などの居住者にそこに止める駐車違反車を排除する権利と責任をもたせるのです。先ず、最初にそこに違反して駐車しようとする車に対して、ここに駐車しないでほしいと注意する権利と、駐車違反した車を警察に通報する義務と、自分の車と自分のところに関係する車はそこに駐車違反しない、させないという責任をもたせるのです。この方法を先ず駐車違反取締重点地区から始め、試行を重ね全国に普及させていけば、駐車違反車をなくす決め手となり円滑な交通環境が確保されるであります。

## 第6章 交通イノベーション

### 一、道路ガイド自由自在システム―百円のカーナビ

#### (1) 交通事故・渋滞は激減出来る

交通事故の防止、交通渋滞の解消などのためには、誰でも、いつでも、どこでも、国民的レベルで利用出来る交通事故・渋滞防止システムとしてのシンプルで効果的な道路ガイドシステムが必要です。

ソフトの悪い道路は道路ではなく、ただの道路予定地に過ぎません。

人、物を目的地に効率よく正確に運ぶために道路はありますが、普通、道と呼ばれる路面などは、ハードとしての単なる構造物であり、目的地へ正確に効率よく導く適切な方向指示システムなどのソフトの充実と相まってその機能を果たす、真の道路と言えましょう。現状ソフトとして方向表示板などがありますが、一千万台を超える、日本のカーナビゲーションの普及台数は、現状ソフトの物足りなさを物語っ



ているのです。天下の公道は、ハード、ソフト共、備えたものでなければ真の道路たり得ないと言えましょう。「道路ガイド自由自在システム」は各々が、高価なカーナビゲーションにたよることなく、簡単に、誰でも、いつでも利用出来る、ユニバーサルシステムです。「道路ガイド自由自在システム」が完備すれば、メモと鉛筆一本の代価の文字通り百円のカーナビで、日本全国のドライブや旅行などが自由自在となります。

交通事故件数は我が国では減小傾向にあるというものの、二〇〇四年度は死者七三五八人、負傷者は実に一一八万人を超え、今日まで戦後の交通事故による死者の合計は五七万人を突破の状況です。これらの交通事故死者集計の数字は二十四時間以内のもですが、三十日以内の死者はその一・四倍と統計の調査結果にも出ています。

最多時の交通事故による年間死者数は、日露戦争の日本軍将兵戦死者一万三千余人に匹敵する死者数となり、又葉害エイズの被害者数二千余人、死者四百人余と比べても如何にその数が大きいかがわかるのです。

そして加えて慢性的な交通渋滞・交通環境の悪化等国民の苦しみははかり知れま

せん。

これらの解決はきわめて急務であるにもかかわらず、未だ解決の端緒さえ見出し得ない、まことに憂うべき現状であり、毎年事故防止などの掛け声やスローガンは数多く見聞きしますが、そのようなものだけで解決出来ないことは毎年の最悪の結果がそれらが無意味であり、無作為であることを何よりも雄弁に示している確かな証拠なのです。

交通事故・渋滞対策に限りませんが、何ごとにかかわらず同じことをやっていたら結果は常に同じです。結果が常に最悪であるということは何もやっていないのと同じこととなるのです。

交通問題の重要性は交通事故の防止・交通渋滞の解消など交通環境改善に依る経済効果だけでも、我が国では年間五兆円也、交通渋滞損失一〇兆円也にも達すると言われますが、国力の衰退をも招くこの膨大で永続的な国家的損失は可能な、あらゆる手段を講じて必ずすみやかに解決しなければなりません。

## (2) 交通事故・渋滞の理由

自動車など交通手段の質・性能と、利用者を誰でも容易・确实・安全に目的地へ到達させることが出来る道路ガイドシステムとは、健全な交通社会を支える「くるま」の両輪です。

ドアツードア、点から点への移動の便利さで発達した自動車にも当然ナビゲーションなどの道路ガイドシステムが必要ですが、それらの不備と、大量且つ質性能の向上した自動車とのアンバランスが、今日の混乱の大きな要因となっているのです。

最近、ハイテクを利用した、通称VICS・ATIS・GPS等の地磁気や他の人工衛星などを利用したディスプレイ方式の高価なナビゲーションがありますが、日本七千八百万人余のドライバーのうち今後何人が利用し、交通事故防止・交通渋滞解消など交通環境改善にどれ程の効果が期待出来るでしょうか。ましてや天下の公道で道に迷わないため高価複雑な装備を必要とし、それを装備した特定車しか利用出来ない方法では問題解決は出来ないし、広く国民的レベルで受け入れられ利用出来るものでなければ、真の産業となり得ないでしょう。又人工衛星利用のナビゲ

シオン技術は地域紛争などの兵器に流用される危険を伴うとも指摘されており、これらの開発利用は特に慎重に行われねばなりません。

そして最近、自動車運転中の携帯電話使用による重大交通事故が多発しており、当局より嚴重警告がなされておりますが、テレビを見ながらの運転同様のカーナビゲーションの利用方法は余程工夫されなければなりません。

交通事故防止・交通渋滞解消などの交通環境改善は国家・国民的課題です。一般車・トラック・バス・単車・自転車・そして歩行者まで、道路を利用するより多くの人々が簡単に誰でも・どこでも・いつでもそして安価で使えるものでなければなりません。

重さ数吨、数十吨の鉄塊と言われる自動車が大量且つ複雑に昼夜を問わず街路を疾走する現実、運転中の一瞬の油断がとり返しのつかない、多くの事故発生の原因となるのは、決して偶然でも不思議でもありません。

もはや底無しの泥沼化した日本の交通環境最悪状態の中で、一般的実用に不向きで問題解決に程遠いユーザー不在の「システム」作りに、公費や時間・国民の電波を浪費していることが許される状況ではないのです。

尊い人命を守り、資源・労力・時間の膨大な浪費で国力の衰退をも招く、最悪ともいふべき日本の交通環境を改善するため、日本の道路ガイドシステムを今直ちに、新しい発想で改新しなければならないのです。

### (3) 交通事故・渋滞激減システム

交通事故防止・交通渋滞解消・交通環境改善のための「システム」として、番号（記号）付交通信号機による「道路ガイド自由自在システム」の実施が最適の方法です。シンプル・イズ・ベストです。この「システム」は世界各国より高い評価を受け世界的にも通用し、国民的・国際的レベルで、簡単に誰でも・いつでも・どこでも・安価に利用出来ます。

この「システム」は現在道路上にある道路交通信号機に、ルート別の通し番号（記号）を併設し、それらを各々の利用目的に合わせて効果的に利用して、交通環境の改善などに役立てるものです。

(4) 交通事故・渋滞激減の具体法

「道路ガイド自由自在システム」実施応用例

(A) 「道路ガイド自由自在システム」を実施するための必要条件は次の通りです。

(I) 各必要主要道路に独自の路線（ルート）番号（記号）を付ける。但し路線番号のあるところは出来るだけそれを利用する。

(II) 道路交通信号機に、ルート別通し番号（記号）を付ける。

（各路線上に存在する全交通信号機に、起点から終点に向かって順次、各交通信号機相互間に一定の関連性を持った独自番号（記号）を付ける、例えば、道路N号線上に道路交通信号機が全部で五百個あるとすれば、起点から終点に向かってそれらの信号機に順次N-1・N-2と付けていき、起点交通信号機より五百番目にある交通信号機にはN-500と付す。）

(III) 道路交通信号機番号（記号）と表示地点名との対照表を作成して、

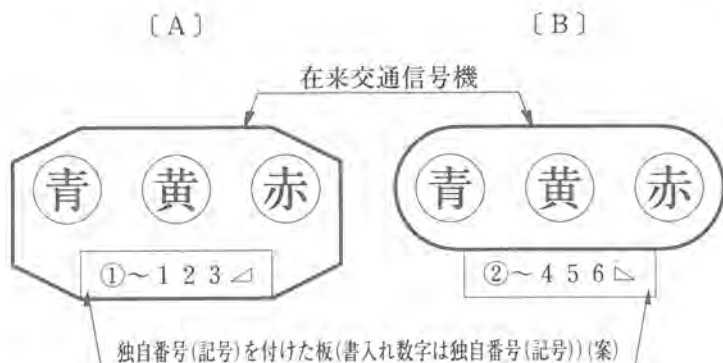
(イ) 全データをホストコンピュータに入力する。

(ロ) 全データを（電話番号帳のような）数冊にまとめ利用する。

(Ⅳ) 道路交通信号機番号（記号）と道路交通信号機印を、道路地図の該当位置に記入する。

(Ⅴ) 名刺の住所に添え最寄りの道路交通信号機番号（記号）を入れる。

ルート別通し番号(記号)入り道路交通信号機構造図(案)



- [A] 信号機内の数字は、この信号機の位置が道路路線番号(記号)①号線上にあり且つ起点より数えて123番目のものであることを示す。
- [B] 信号機内の数字は、この信号機の位置が道路路線番号(記号)②号線上にあり且つ起点より数えて456番目のものであることを示す。
- [C] ◁印の細い方は起点方向を示し、太い方は終点方向を示す。
  - 付設 記号板はプラスチック等相当厚
  - 書入れ記号(数字)は夜光塗料等に依る終日可視可能なもの
  - 信号機が事後増設のものは枝(番)記号を付し、減じた所は、欠(番)記号とし、10年毎位に必要なに応じ再組織する。



(C)「道路ガイド自由自在システム」の利用方法

その1 必要条件(Ⅲ)の(イ)の道路交通信号機番号(記号)の全データを

入力したホストコンピュータと通じたディスプレイを使用した場合

(表1) 参照

(表 1)

## 応用例

- A) = 出発地点：信号機番号 1 - 16 要件 I) ~ IV) の方法にて予知  
 N) = 目的地点：信号機番号 3 - 77 要件 I) ~ IV) の方法にて予知

ドライバーは先ず、A) と N) を所持のディスプレイに入力すると下図のように最適経路が信号機番号で同ディスプレイに自動的に表示される。(距離と所要時間も表示)

それに従い、順番に伝って走行すれば最適経路で目的地に到着する。(途中変更可) 音声による誘導も可能。

	信号機番号	操作	距離	時間
A) 	1 — 16	S,FD		
B) →	1 — 25	L T	D I	T
C) →	21 — 37	R T	D I	T
D) →	2 — 45	L T	D I	T
E) →	22 — 57	R T	D I	T
F) →	3 — 24	F D	D I	T
.	-----	--	--	-
.				
N) 	3 — 77	D	--	-
X) →	合計		Km	時

A) = 出発地点の信号機番号(使用者入力)  
 B)、C)、D)、E)、F) = 走行途中の方向転換地点の信号機番号(自動表示)  
 N) = 目的地点の信号機番号(使用者入力)  
 S = 出発を表す  
 L T = 左折を表す  
 R T = 右折を表す  
 F D = 直進を表す  
 D = 到着を表す  
 D I = 距離を表す  
 T = 所要時間を表す  
 X = 合計を表す(自動表示)

ディスプレイ

その2

必要条件（Ⅳ）の道路交通信号機番号（記号）と道路交通信号機印を道路地図の該当位置に記入したデータを使用した場合

（表2）参照

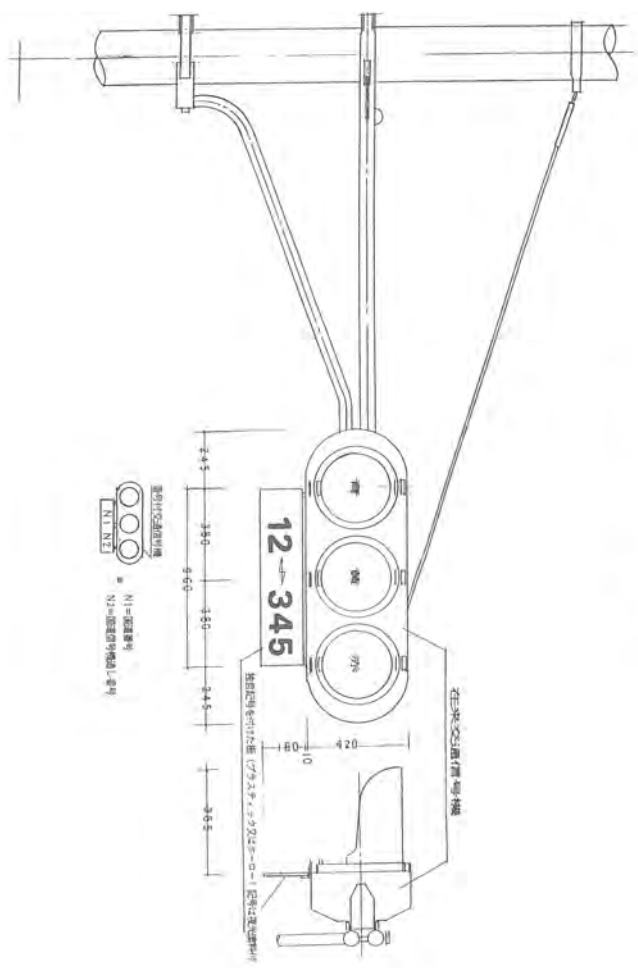


# 「道路ガイド自由自在システム」

道路交通信号機  
取付参考図



# 「道路ガイド自由自在システム」 交通信号機設計図(案)



(5) 「道路ガイド自由自在システム」のメリット

わたしがえらぶわたしのみち

番号（記号）付道路交通信号機による「道路ガイド自由自在システム」実施による効果及利点は次の通りです。

- (I) 日本人・外国人を問わず地理不案内なドライバー等は、目的地へ運行前に、地図その他種々の方法により、目的地に到着するのに必要な独自番号（記号）付交通信号機の独自番号（記号）、例えばN-123地点を予知すればN-123以外の何処の独自番号（記号）付交通信号機地点よりにも、N-123との関連より各々相互間の関係が予測出来るので、出発前に予定した進路変更或いは進行途中予定外の進路変更を行うにしても事前より余裕をもって準備出来、又進行中もドライバーは必ず通過途中の交通信号機を見るので、それに付設された交通信号機番号（記号）を順番にたどって行けば必ず予知した地点に到着するのであるから、運行中も常に安心であり、間違つて予定進路変更地点を通り過ぎてしまつてもすぐにそれに気付き、直ちに適切な対処も出来る

ので損失を最小限に止めることが出来るのです。即ち、目的地を先ず線として捉え、点として決めることが出来るので、運行中常に不安なく、安全確実に目的地に到着出来るのです。このようにして地理不案内の解消により、全ドライバーは多くの幹線道路を効果的に容易最大限に安心して利用することが出来ますし、ウロウロ運転や急な進路変更などによるトラブルも防止出来るので、交通事故防止や交通渋滞の解消の決め手となるのです。

(注) Nは或路線番号(記号)

(Ⅱ) 地理不案内者等が、目的地へ行く道順や場所を他者に尋ねる場合も、道路交  
通信号機番号(記号)で教えれば教える者もはっきりと教え易く、教えられ  
る者もはっきりと確実に理解出来るので、ドライバーは教えられた道路交通  
信号機番号(記号)をメモし、その道路交通信号機番号(記号)と現在地点  
より至近の道路交通信号機番号(記号)との関連性を解明し、目的地までの  
最適経路を信号機番号で設定し、それに従って運行すれば間違いなくスムー  
ズに目的地に達することが出来るのです。

(Ⅲ) 消防署・警察署・救急車・自動車の路上修理サービス車などに自分の存在位



置を他に通報する必要のあるすべの場合も、道路交通信号機番号（記号）にて行えば、一般の誰もが容易確実に位置を通報することが出来るのです。なお、自分の住居や職場などへの最寄りの最適道路交通信号機番号（記号）をおぼえておくと、何かと非常に便利となります。

(Ⅳ) 道路運行中の車輛等に対し、道路工事や交通事故・道路渋滞などによる迂回指示或いは道路渋滞情報を得て自らの判断で迂回する場合も、迂回地点及迂回後のルート選定・指示等、道路交通信号機番号（記号）を利用して行えば容易確実となります。

(Ⅴ) この「道路ガイド自由自在システム」の実施には、既設の道路交通信号機を利用し、それに終日可視可能な独自番号（記号）を付したプラスチック板等を付設するようにすれば設備費も安価に出来、短期間で本「システム」を完成することが出来るのです。

(Ⅵ) この「道路ガイド自由自在システム」の実施により、各自動車がスムーズに無駄なく運行することが出来るため、不必要な燃料消費を避けることが出来るので、大切な石油資源の節約になり燃費も抑制出来ます。又自動車運転手

を始め同乗者も、車のスムーズな運転による時間の無駄なロスを防ぐことが出来ます。これらを日本全国六千数百万ドライバー、六千数百万台の自動車が、年間を通じこれらの恩恵を受けることが出来るため大きな総量となります。

(Ⅶ) 商品展示会等の各種展示会場或いは各種催し開催会場・各種式典会場等々の所在位置を略図印刷して表示する場合なども、この「道路ガイド自由自在システム」を活用することにより、所在位置を教え示すほうも、それを教え示されるほうも、その方法が容易であり確実に出来ます。又、名刺や各種案内書などの住所にそえて、その住所に至る必要な最適の道路交通信号機番号(記号)を入れると、その住所へ尋ねて行く人たちは自分の出発地点の道路交通信号機番号(記号)と訪問先の示された道路交通信号機番号(記号)との関連性を各種の情報をもとにして事前に調査し、そこに至る最適経路を道路交通信号機番号(記号)で計画してメモしておき、その番号(記号)に従って運行すれば、自分が選り自分の計画したルートで間違いなく目的地に到着することが出来るのです。

(Ⅷ) 道路交通信号機にルート別通し番号(記号)を付ける「道路ガイド自由自在システム」を広域的規模で実施し、各道路交通信号機の独自番号(記号)とそれが存在する地点との関連性を示す対照表を作成表示し、図示又は電話番号長のようなものにまとめて、各自に所持するか或いは又ホストコンピュータに全データを「入力」しておけば、利用者はパソコンなどにより画面表示や音声などにて目的地に到着するための最適経路案内を、いつでも・どこでも・誰でも・受けることが出来るので、車輛運行の効率化がよくなります。又、本「システム」を有効に活用することにより、よく知られた利用し易い国道などの特定道路偏用の是正を促し、主要地方道などを含めた多くの主要道路の利用度を高めることが出来るのです。そしてこのような「道路ガイド自由自在システム」の完備は、新しく幾つもの主要縦貫道路を作ったのに匹敵する効果が期待出来ます。

今、世界の交通事故による死者は年間二十万人以上といわれ、日本でも一万人を越えることもありました。最近自動車運転中の事故も多発しておりますが、道を間

違え、それを取り返そうとしてスピードを出して起こす事故も決して少なくない筈です。交通渋滞も世界中で毎日発生しており、まことに地球資源の莫大な浪費です。尊い人命を守り交通事故・交通渋滞を防止し、道路交通の合理化運輸観光情報産業の発展など「道路ガイド自由自在システム」は日本及世界の恒久平和と繁栄に不可欠の「システム」となることを念願しております。

二、バス、鉄道ガイド自由自在システム―バス鉄道は百倍便利になる

(1) 安くて便利なバス、鉄道ガイドシステムの必要性

都会へ出て、バス、鉄道（地下鉄）を乗りこなせたら一人前、といわれますが、都会で長年生活していても、バス、鉄道（地下鉄）を自由に乗りこなすのは、現状では容易ではありません。

「バス、鉄道ガイド自由自在システム」はごく簡単な基本をおぼえるだけで、いつでも誰でも、どこでも、たやすく自由自在に活用出来るので、高齢化、福祉社会

への対応、国内外地理不案内一般利用者なども利用し易い交通機関となり、人にやさしく、地球にやさしい交通機関として本来の機能を飛躍的に高めることが出来る。

バス・鉄道を安くて便利に使いやすくするには、シンプルなバス・鉄道ガイドシステムが必要です。

人や物を目的地へ効果的に運ぶ手段として、種々の交通機関は現在社会にとって必要不可欠のものでありますが、とりわけ大量輸送機関としてのバスや鉄道は重要です。しかし近年は、自動車の性能向上と大量普及などと共に高速道路や一般道路などの整備に伴い、交通の形も多様化の時代となりました。ドアツードアの自動車も勿論便利ですが、交通事故・交通渋滞の多発、それらに伴う地域環境の悪化などの問題点も多くなって来ております。このようなことから各地でノーマイカーデーなど設けて、なるべく自動車の使用を抑え、出来るだけバスや鉄道などの公共交通機関を利用しようという動きとなって来ていますが、バスや鉄道の利用度を高めるためには人々の移動にかかせないこれらバスや鉄道の出発駅から目的駅までの最適ルートを選ぶ方法や乗り降り・乗り継ぎ・乗り換えなどが、誰でも・いつでも・どこでも間違いなく簡単に出来る、便利で使いやすい「バス・鉄道ガイドシステム」

が必要です。このような「システム」があれば、日頃よく利用し馴れた定期利用者など以外の、利用不馴れな不定期利用者や他地方からの来訪者、或いは外国人などの利用者も多くなり、又子供でも一人で充分利用出来るようになります。このようにバスや鉄道が誰にでも利用し易い便利な交通機関となれば、必然的に利用者が増加していくのです。

都心部などへの用足しは、時間などを気にせず、自由にゆつくりとビジネスやショッピングなど出来ることが求められます。駐車場問題や交通事故・交通渋滞のことなど考えると、安くて便利であればバスや鉄道の利用者が増えるのは目に見えています。たまた安くて安心でも、不便であれば利用者が離れて行くのは当然です。バス・鉄道の健全経営のためにも、シンプルで効果的な「バス・鉄道ガイド自由自在システム」の実施が不可欠です。

「バス、鉄道ガイド自由自在システム」が完備されれば、誰でも、不自由なく、バス、鉄道（地下鉄）を自由自在に活用（乗り降り、乗り換え、乗り継ぎ、目的地設定、複雑な目的地への運賃計算、所要時間、最適経路設定、正確で常に安心快適に旅行）出来るので、バス、鉄道が百倍便利になります。

(2) 安くて便利なバス、鉄道ガイド自由自在システム

バス・鉄道の利用度を高め、結果として交通渋滞の解消、交通事故の防止、バス・鉄道経営の健全化、交通環境の改善のための「システム」として、番号付停車場名による「バス・鉄道ガイド自由自在システム」の実施が最適の方法です。

シンプル・イズ・ベストです。この「システム」は世界各国より高い評価を受け世界的にも通用し、国民的・国際的レベルで簡単に・誰でも・いつでも・どこでも・安価に利用できます。

この「システム」は現在の各バス及鉄道停車場にある各停車場名標示板に、各路線別の通し番号（記号）を併設し、それらを各々の利用目的に合わせて効果的に利用して、交通環境の改善などに役立てるものです。

(3) 安くて便利になるバス、鉄道の具体法

「バス、鉄道ガイド自由自在システム」実施応用例

(A) 「バス・鉄道ガイド自由自在システム」を実施するための必要条件は次の

通りです。

(Ⅰ) 全バス・鉄道停車場に独自の路線別通し番号(記号)を付ける。

(各バス及鉄道路線の各路線毎に独自の路線番号(記号)を付け、各路線上に存在する全停車場に起点停車場から終点停車場に向かって順次、各停車場相互間に一定の関連性を持った独自番号(記号)を付け、停車場名と併用する。)

(Ⅱ) 全バス及鉄道について、停車場名(停車場所在地名)と独自の停車場番

号(記号)(路線別番号と路線別通し番号)との対照表を作成する。

(Ⅲ) 全鉄道の列車及バスに独自番号(記号)を付け、それらの機能(始発駅・終着駅・停車駅及各時刻・運行日等)との対照表を作成する。

(Ⅳ) 全バス及鉄道の各停車場に路線別番号(記号)と路線別通し番号(記号)を付け、停車場名と共にバス又は鉄道地図に記入する。

(Ⅴ) 右記(Ⅰ)～(Ⅳ)の全データをホストコンピュータに入力する。



(B) 必要条件 (I) 詳細

全バス及鉄道停車場に独自の路線別通し番号 (記号) を付ける。

路線別通し番号 (記号) 付停車場名標示による「バス・鉄道ガイド自由自在システム」構造図 (案)

その1・その2参照

その 1  
(鉄道ガイド自由自在システム)

(鉄道) 停車場名標示板(案)

神戸(こうべ)	
① - 142	
② - 1	
兵庫	元町
② - 2	① - 141

在来停車場名標示板  
(数字は付設独自記号)

- ○内数字は路線番号を示す。  
例 ①はJR東海道本線  
②はJR山陽本線
- 他の数字は各路線上の起点より数えてn番目の停車場であることを示す。

書入数字は夜光塗料等による終日可視可能なもの。

その 2  
(バスガイド自由自在システム)

(バス) 停車場名標示板(案)



在来停車場名標示板  
(数字は付設独自記号)

- ○内数字は路線番号を示す。
- 他の数字は各路線上の起点より数えて n 番目の停車場であることを示す。
- △印の細い方は起点方向を示し、太い方は終点方向を示す。

書入数字は夜光塗料等による終日可視可能なもの。

(C) 「バス・鉄道ガイド自由自在システム」の利用方法

その1 必要条件 (V) のバス及鉄道の停車場番号 (記号) の全データを入力したホストコンピュータと通じたディスプレイを使用した場合

(表3) 参照

(表 3)

## 応用例

A) = 出発地点：停車場番号 3-11等 要件 I)~V)の方法にて予知

N) = 目的地点：停車場番号 5-11 要件 I)~V)の方法にて予知

鉄道(バス)利用者は先ずA)の停車場番号とN)の停車場番号を所持のディスプレイに入力すると下図のように最適経路が停車場番号で自動的に同ディスプレイで表示される。(列車独自番号、運賃、距離、乗降車時刻、所要時間も表示)

それに伴い、順番に伝って鉄道(バス)を利用すれば、最適条件で目的停車場に到着する(途中変更可)。カードによる(キャッシュレス)自動改札運賃支払い可、音声による誘導可。

逆に、N)の停車場番号及び必要降車時刻とA)の停車場番号を入力すると、出発停車場必要乗車時刻の自動表示及び最適経路等表示可。

A) = 出発停車場番号  
(使用者入力)

B)、C)、D)、E)  
= 走行途中乗換(乗降車)  
停車場番号(自動表示)

N) = 目的停車場番号  
(使用者入力)

X) = 合計を表す(自動表示)

S = 出発を表す

O T = 降車を表す

R T = 乗車を表す

D = 到着を表す




D I = 距離を表す

T = 時間を表す

t = 時刻を表す

¥ = 運賃を表す

N<sup>0</sup> = 列車独自番号

	停車場 番号	列車 独自 番号	動作	運賃	距離	時間		
						乗車	降車	所要
A) 	3-11	N <sup>0</sup>	S,RT	—	—	t	—	—
B) 	3-55	N <sup>0</sup>	O T	¥	D I	—	t	T
C) 	2-22	N <sup>0</sup>	R T	¥	D I	t	—	T
D) 	2-65	N <sup>0</sup>	O T	¥	D I	—	t	T
E) 	5-34	N <sup>0</sup>	R T	¥	D I	t	—	T
⋮	---	-	--	-	--	--	--	--
⋮	---	-	--	-	--	--	--	--
N) 	5-11	N <sup>0</sup>	D,O T	¥	D I	—	t	T
X) 	合計	-	—	¥	Km	—	—	時

ディスプレイ

その2

必要条件（Ⅳ）の全バス及鉄道の各停車場に路線別番号（記号）と路線別通し番号（記号）を付け停車場名と共に、バス又は鉄道地図の該当位置に記入したデータを使用した場合

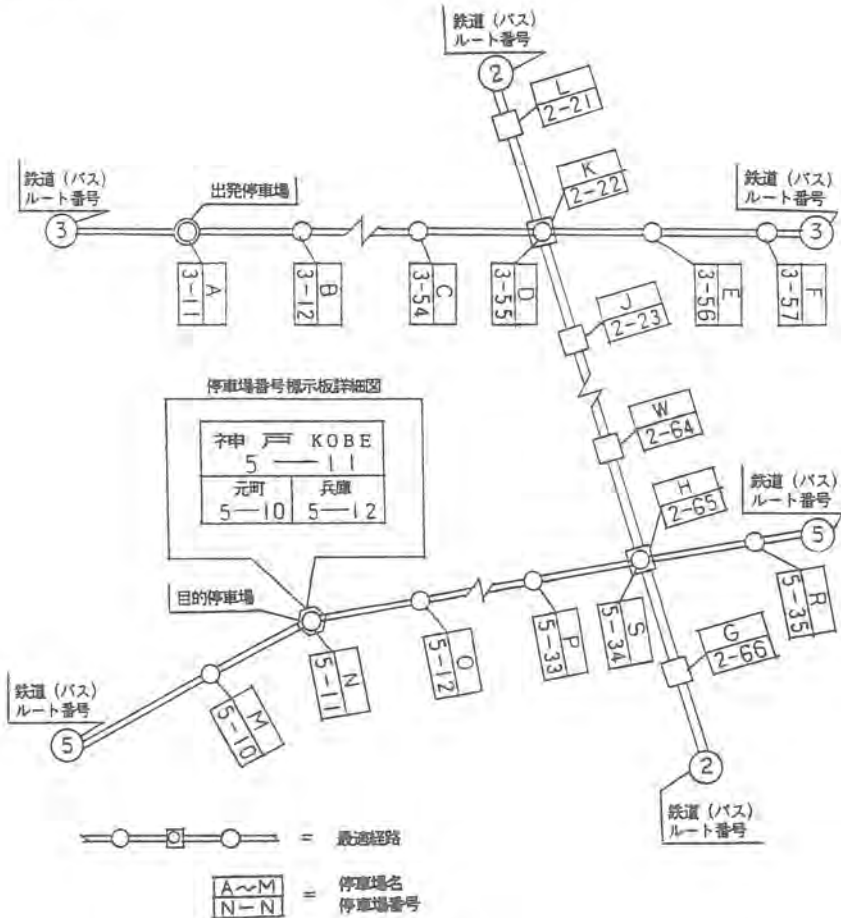
（表4）参照

(表 4)

応用例

出発前、要件Ⅲ)の鉄道(バス)地図よりA)~N)の関係を知り、最適経路A)、B)、C)、D)、E)、…N)を選び出し、メモし、進行中それに従い停車場番号を伝えて行けば、安心・確実・簡単に間違わず目的停車場に到着する。

要件Ⅳ)例図



# 「鉄道ガイド自由自在システム」

駅名標示板  
取付参考図





# 「バス、ガイド自由自在システム」

バス停留所名標示板  
取付参考図



(4) 「バス、鉄道ガイド自由自在システム」のメリット

路線別通し番号（記号）付停車場名表示による「バス・鉄道ガイド自由自在システム」実施による効果及利点は次の通りです。

- (Ⅰ) 日本人・外国人を問わず、目的駅へ出発前に、必要条件（Ⅳ）の地図や必要条件（Ⅴ）のデータやその他種々の方法にて、目的駅に到着するのに必要な路線別通し番号付停車場の独自番号（記号）、例えばN-56駅を予知すればN-56駅以外の何処の独自番号（記号）付停車場駅よりにも、N-56との関連より各々相互間の関係が予測出来るので、目的駅への最適経路を事前より余裕をもって選ぶことが出来る、又乗車して進行中も旅行者は通過途中の駅の独自番号を見ることがにより目的駅へ間違いなく進行しているか確認出来る。又間違つて乗り過ぎていてもすぐに気付き、被害を最小限にすることが出来るので常に安心してバスや鉄道を利用して旅行を続けることが出来ます。
- (Ⅱ) バスや鉄道の利用不慣れな人々及外国人や旅行者などの乗り降り・乗り換え・乗り継ぎなど誰でも・いつでも・どこでも間違わず簡単に出来ます。

(III) 目的駅の案内を受ける時、教える者も教えられる者もその方が確實容易に出来ます。

(IV) 既設の駅名標示板などを利用して独自番号（記号）を付けるなどすれば、設備費が安価にそして短期間に出来ます。

(V) 幾つもの路線を乗り継いで遠い所へ旅行する場合なども、運賃計算・所要時間・旅行距離計算・乗り換えや乗り継ぎ時刻の予定など、誰でも・いつでも・どこでも容易に出来ます。

(VI) 車輛運行状況電光表示も利用者にわかりやすくなります。

(VII) バーコード表示方式にすると、駅を通過する毎に駅の独自番号（記号）が自動表示出来ます。

(VIII) 小型の情報キャッチ機に必要な乗降駅などの独自番号（記号）を入力しておけば、事前に画面表示か、音声にて知ることが出来ます。

(IX) 名刺や各種案内書などの住所にそえて、最寄りの駅名及独自番号（記号）を入れると便利になります。

(X) 国内外の若人たちのヒッチハイクなどによる、わかりやすくて安心、安価な

観光旅行が出来るため、日本のすみずみまでよく知ってもらえて、世界の人の日本への理解度を高めることが出来る。

(XV) 「バス、鉄道ガイド自由自在システム」により、バス、鉄道（地下鉄）が利用し易くなり、便利で安全な足が確保され、自動車等の利用がひかえられるため、都市は毎日がノーマイカーデーとなり、都市から国中から、交通渋滞、交通事故、駐車違反や無用の騒音排気ガスなどが急速に消えていく。

(XVI) 「バス、鉄道ガイド自由自在システム」により、バス、鉄道（地下鉄）の利用度が高まり、その経営基盤を強固にし、運輸、情報、観光などの分野に新たな多くの産業の創出が促進される。

(XVII) 日本国中、或いは世界中のあらゆる運輸機関の鉄道・バス・船舶・航空機等々及道路交通信号機などに、交通ガイド自由自在システムを活用すれば、人間や物資の移動効率が飛躍的に向上する。

(XVIII) 駅番号（記号）で危険（バス・鉄道）通過区間を、コンピューターに入力しておけば、そこを通過する適時にブザーで警告させることが出来る。

## 第7章 エネルギーイノベーション

### エネルギー自由自在

#### 一、集風力発電システム—究極の風力発電

##### (1) 進化する世界の風

電力はもはや人間の現在は勿論未来への生成発展に欠かせない絶対的な存在となっておりますが、この電気を作るため、石油、石炭、原子力、ガス、水力、太陽光、風力など利用されており、中でも風力発電は今後未来に向けての世界のエネルギーの主役たり得ることが期待されます。

即ち風力は豊富に存在し、発電方法等の工夫によりより安価となり環境にやさしく、これらに太刀打ち出来るエネルギー源はほかにはなく、ほとんどの国が或いは地方が自前で作り利用できるエネルギーです。世界的にも地球上の過疎地と言われ

る、北米の大草原地帯、シベリア東部、アルゼンチンバタゴニア地方、アフリカの砂漠地帯、南極大陸、オーストラリア、中国北西部などは風力発電の宝庫であり、加えて沖合の潜在的風力資源が加われば、風力は世界規模でも電力需要ばかりではなく、エネルギー需要全体を満たすことができることになるのです。

このようにして得た安価な電力は水を電気分解して、燃料電池として最適の水素を製造する上で有利であり、風力エネルギーを水素に変えて貯蔵すれば、パイプラインや液状化して船舶輸送も出来るのです。このように、風力と水素は、エネルギー問題のみに止まらず地球のそのものありかたをも変え各地域のさまざまな格差をなくし、世界恒久平和の“いしずえ”となるのです。

このような無限の可能性をもった風力発電は、その発電システム、そのものもいろいろ工夫して、よりよいものにしていく必要があります、それが今後の風力発電発電成功の“カギ”を握るものでありましょう。

集風力発電“システム”は利用可能な自然風をより効率的に最大限に活用出来、早晩期待される新しい技術革新などもふまえた、世界中、どこでも、誰でも、いつでも、安価で容易に利用出来るシステムです。

## (2) 集風力発電システムのメカニズム 原理

集風集約された自然風は強力な風力エネルギーを持つ、ビル風や谷風となり時には台風並の風となつて大きな被害を及ぼすことは、しばしば我々の日常体験し、見聞するところですが、この集風力発電システムは利用可能な自然風を広く効果的に集風集約さす、人工遮蔽物等で強大な風力エネルギーを発生させ、これを利用して発電を行うシステムです。

風は空気の流れですから、風を持つエネルギーは運動エネルギーとなります。ここに質量  $m$  速度  $V$  の物質の運動エネルギーは  $1/2 m V^2$  となり、受風面積  $A$  ( $m^2$ )、風速  $V$  ( $m/s$ )、空気密度を  $\rho$  ( $kg/m^3$ ) とすると風のエネルギー  $P$  ( $W$ ) は

$$P = 1/2 m V^2 = 1/2 (\rho A V) V^2 = 1/2 \rho A V^3$$

となります。即ち、風力エネルギーは受風面積に比例し、風速の三乗に比例することになり、風速が二倍になると風力エネルギーは八倍になり風速が四倍になると風速エネルギーは六十四倍というふうになっていきます。

このように、風力発電に必要な風力エネルギーは風速即ち風の強さが非常に重要

です。そしてこのように風力発電をするためにより有利な強い風を得るため集風力発電システムは、自然風をより広く効果的に集風・集約させる人工遮蔽物等で強大な「風力エネルギー」を発生させるよう構成し、これを利用して発電を行うものです。今これを例示しますと、受風面積二十 $m^2$ に受けた風速一 $m/s$ の自然風が遮蔽物に誘導集約され、断面積一 $m^2$ の風洞を吹き抜ける時、面積の逆比例により、風速二十 $m/s$ となり、この風洞内に設置したファンなどにて得た動力で発電を行います。又この時集風して増加した多量の空気中の水蒸気から製水も行えます。

### (3) 集風力発電システムの方法

各形状、規模、用途使用個所等（安全対策共）

集風力発電システムの実施方法は自然風などあるところならどこでも可能であり、基本的には人工形でも自然形でも集風し集約出来る形であればよいわけですが、場所によって最も適当と思われる数ある方法のうちのいくつかを例示しますと、

#### (a) メガフォン型（Ⅰ）（可動水平面上型）——中小規模自給自足型発電

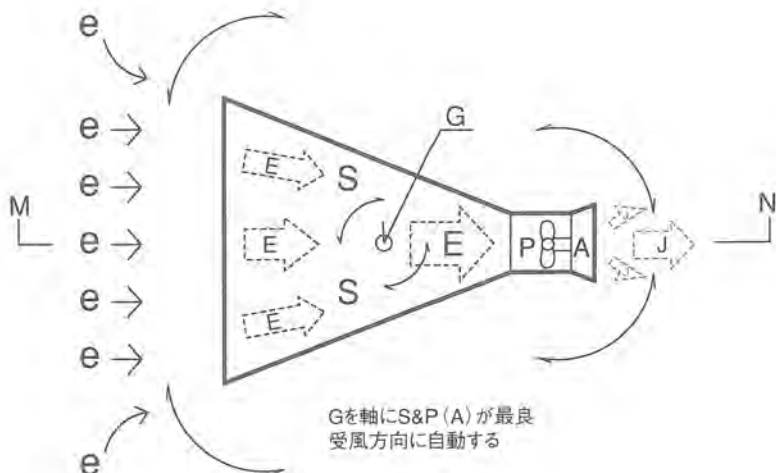
これは集風集約用遮蔽物をメガフォン型としメガフォンの広いほうを集風



口とし、ここより受けた自然風をメガフォンの狭いほうにだんだんと誘導していき集中させて集約し、それに連なる風洞内に設置したファンなどにて得た動力で発電する、そしてこの集風集約用本体（風洞部も含む）重心部に自由回転軸を設け、本体自体が自動的に風の主方向へ向きながら最も効率よく受風出来、発電できるよう設置する。なお、各方法共安全対策用ネット張等の設置を適宜行う。設置適地は、平面上、平坦地上、ビル屋上等。

(a) メガフォン型 (可動平滑水平面上基本型)

配置・平面図

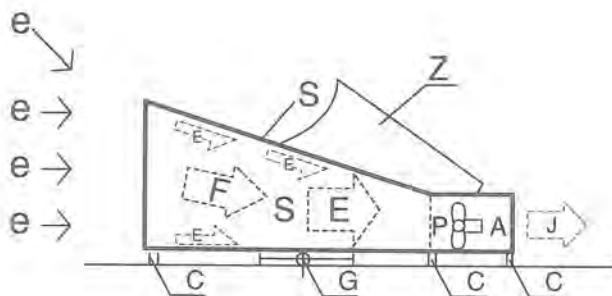


凡例

- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて  
集中増加した風力で発電する発電機 (風洞内)
- C = キャスター又はガイドローラー
- E = 集風、集約され、強力な風力エネルギーを  
持った自然風
- e = 自然風
- G = 最適受風方向自動制御ピン
- J = 排風
- P = 風洞 (可動)
- S = 集風集約用遮蔽物  
(集風量・風速度調節可) (可動)
- Z = 尾翼プレート

(a) メガフォン型 (可動平滑水平面上基本型)

M~N断面図



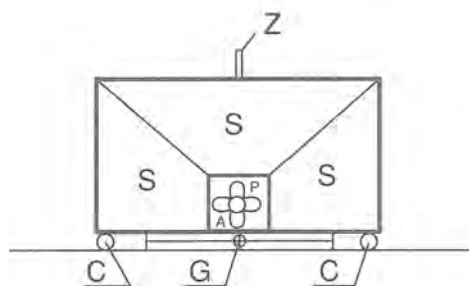
Gを軸にS&P(A)が最良  
受風方向に自動する

凡例

- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて  
集中増加した風力で発電する発電機 (風洞内)
- C = キャスター又はガイドローラー
- E = 葉風、集約され、強力な風力エネルギーを  
持った自然風
- e = 自然風
- G = 最適受風方向自動制御ピン
- J = 排風
- P = 風洞 (可動)
- S = 集風集約用遮蔽物  
(集風量・風速度調節可) (可動)
- Z = 尾翼プレート

(a) メガフォン型 (可動平滑水平面上基本型)

正面・立面図



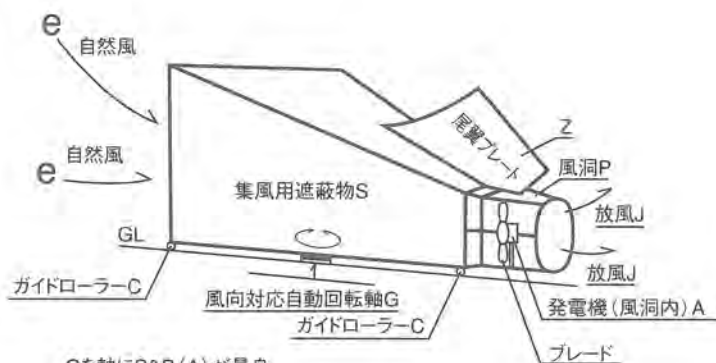
Gを軸にS&P(A)が最良  
受風方向に自動する

凡例

- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて  
集中増加した風力で発電する発電機 (風洞内)
- C = キャスター又はガイドローラー
- E = 集風、集約され、強力な風力エネルギーを  
持った自然風
- e = 自然風
- G = 最適受風方向自動制御ピン
- J = 排風
- P = 風洞 (可動)
- S = 集風集約用遮蔽物  
(集風量・風速度調節可) (可動)
- Z = 尾翼プレート

(a) メガフォン型 (可動平滑水平面上基本型)

立体図 (Aタイプ)



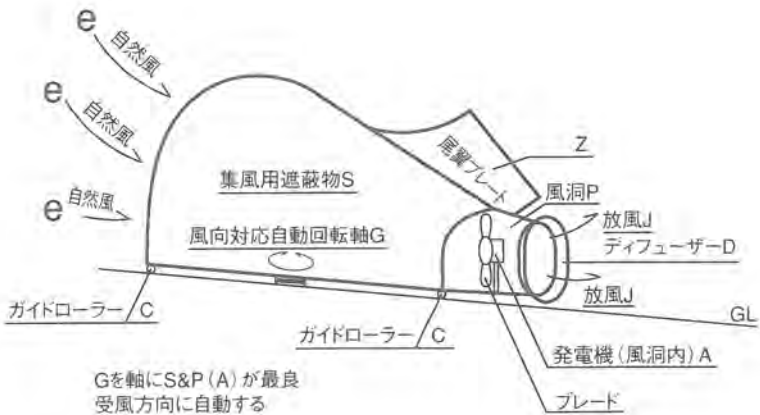
Gを軸にS&P(A)が最良  
受風方向に自動する

凡例

- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて  
集中増加した風力で発電する発電機 (風洞内)
- C = キャスター又はガイドローラー
- e = 自然風
- G = 最適風受方向自動制御ピン
- J = 放風
- P = 風洞 (可動)
- S = 集風集約用遮蔽物  
(集風量・風速度調節可) (可動)
- Z = 尾翼プレート

(a) メガフォン型 (可動平滑水平面上基本型)

立体図 (Bタイプ)

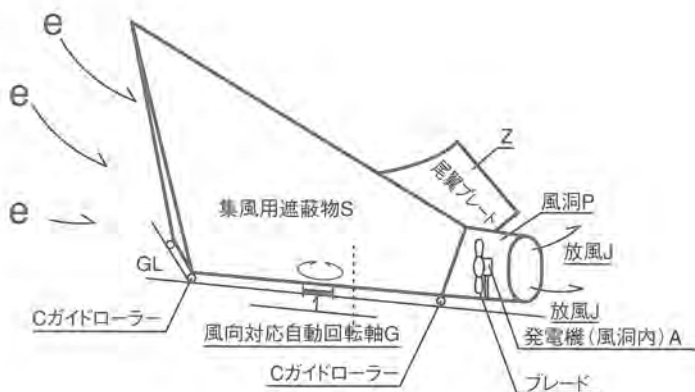


凡例

- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて集中増加した風力で発電する発電機 (風洞内)
- C = キャスター又はガイドローラー
- D = ディフューザー
- e = 自然風
- G = 最適風受方向自動制御ピン
- J = 放風
- P = 風洞 (可動)
- S = 集風集約用遮蔽物 (集風量・風速度調節可) (可動)
- Z = 尾翼プレート

(a) メガフォン型(可動平滑水平面上基本型)

立体図(Cタイプ)



Gを軸にS&P(A)が最良  
受風方向に自動する

凡例

- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて  
集中増加した風力で発電する発電機(風洞内)
- C = キャスター又はガイドローラー
- e = 自然風
- G = 最適風受方向自動制御ピン
- J = 放風
- P = 風洞(可動)
- S = 集風集約用遮蔽物  
(集風量・風速度調節可)(可動)
- Z = 尾翼プレート

(b) メガフォン型 (Ⅱ) (可動非水平面上型) — 中小規模自給自足型発電

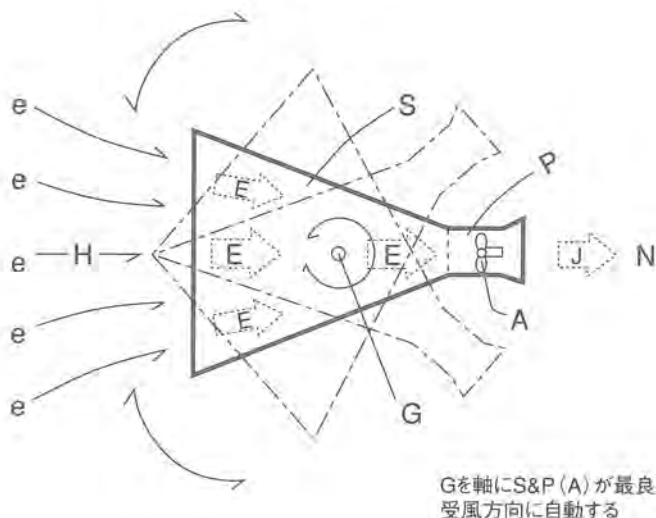
これは形状として基本的にメガフォン型 (Ⅰ) と同じであるが、集風集約用遮蔽物本体 (風洞も含む) の重心部の自由回転軸を軸柱として、本体を支える型として、これを軸に本体が自動的に風の主方向へ向きながら、常に最良受風状態で発電出来るように設置する。

設置適所は非平滑水平面上 (凹凸面上、勾配屋根上、水面上、斜面上等々)



## (b) メガフォン型 (可動非平滑平面上基本型)

配置・平面図

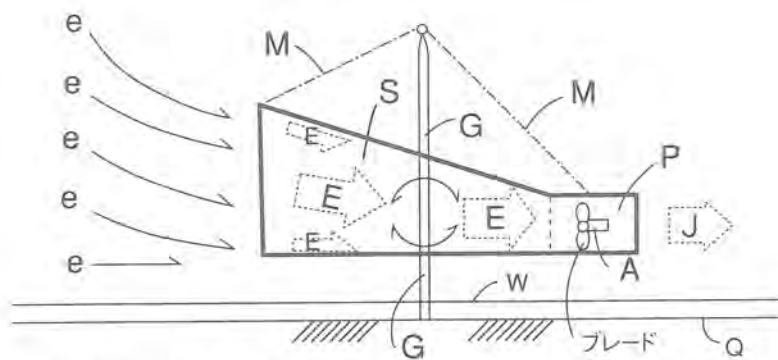


### 凡例

- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて集中増加した風力で発電する発電機 (風洞内)
- E = 集風、集約され、強力な風力エネルギーを持った自然風
- e = 自然風
- G = 支柱 (最適受風方向自動制御軸)
- J = 排風
- P = 風洞 (可動)
- Q = 水底基盤又はGL
- S = 集風集約用遮蔽物 (集風量風速度調節可) (可動)
- W = 水面 (等)

## (b)メガフォン型(可動非平滑平面上基本型)

H-N断面図

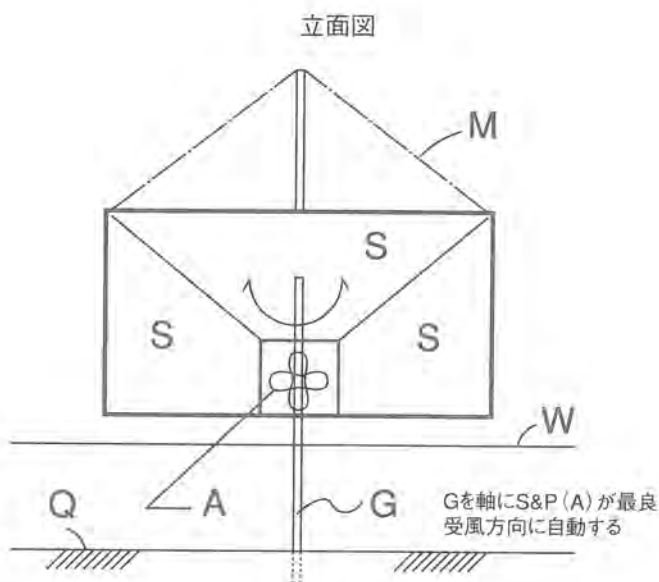


Gを軸にS&P(A)が最良  
受風方向に自動する

### 凡例

- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて集中増加した風力で発電する発電機(風洞内)
- E = 集風、集約され、強力な風力エネルギーを持った自然風
- e = 自然風
- G = 支柱(最適受風方向自動制御軸)
- J = 排風
- M = 支線
- P = 風洞(可動)
- Q = 水底基盤又はGL
- S = 集風集約用遮蔽物  
(集風量風速度調節可)(可動)
- W = 水面(等)

(b)メガフォン型(可動非平滑平面上基本型)

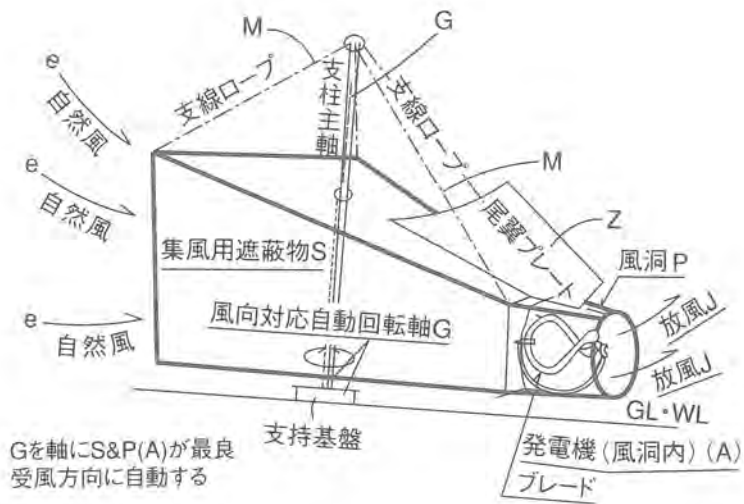


凡例

- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて集中増加した風力で発電する発電機(風洞内)
- E = 集風、集約され、強力な風力エネルギーを持った自然風
- e = 自然風
- G = 支柱(最適受風方向自動制御軸)
- J = 排風
- M = 支線
- P = 風洞(可動)
- Q = 水底基盤又はGL
- S = 集風集約用遮蔽物  
(集風量風速度調節可)(可動)
- W = 水面(等)

(b) メガフォン型 (可動非平滑水平面上基本型)

立体図 (A)

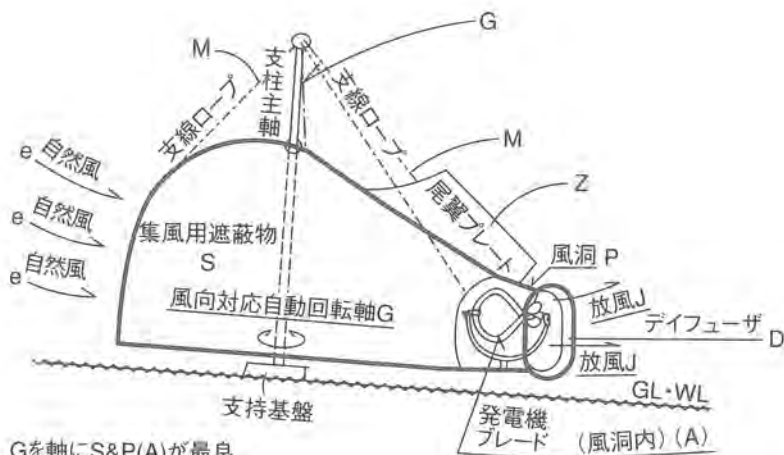


凡例

- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて集中増加した風力で発電する発電機 (風洞内)
- D = デフューザー
- E = 集風、集約され、強力な風力エネルギーを持った自然風
- e = 自然風
- G = 主柱
- J = 放風
- P = 風洞 (可動) (ファン内蔵)
- S = 集風集約用遮蔽物 (集風量 風速度調節可) (可動)
- M = 支線
- Z = 尾翼プレート

(b) メガフォン型 (可動非平滑水平面上基本型)

立体図(B)



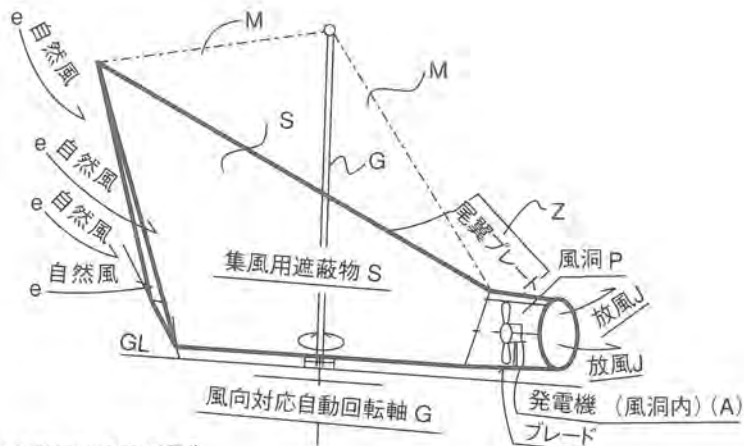
Gを軸にS&P(A)が最良  
受風方向に自動する

凡例

- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて集中増加した  
風力で発電する発電機(風洞内)
- D = デフューザ
- E = 集風、集約され、強力な風力エネルギーを持った自  
然風
- e = 自然風
- G = 主柱
- J = 放風
- P = 風洞(可動)(ファン内蔵)
- S = 集風集約用遮蔽物  
(集風量 風速度調節可)(可動)
- M = 支線
- Z = 尾翼プレート

(b) メガフォン型 (可動非平滑水平面上基本型)

立体図 (C)



Gを軸にS&P(A)が最良受風方向に自動する

凡例

- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて集中増加した風力で発電する発電機 (風洞内)
- D = デフューザー
- E = 集風、集約され、強力な風力エネルギーを持った自然風
- e = 自然風
- G = 支柱
- J = 放風
- P = 風洞 (可動) (ファン内蔵)
- S = 集風集約用遮蔽物  
(集風量 風速度調節可) (可動)
- M = 支線
- Z = 尾翼プレート

(c I, II)

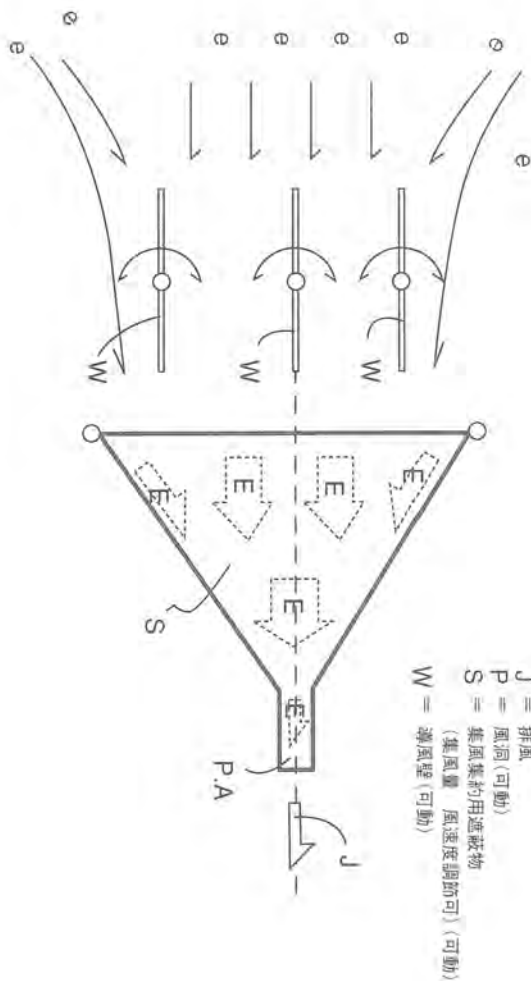
メガフォン型 (Ⅲ) (固定型) —— 中小規模自給自足型発電

これも形状としては基本的にメガフォン型 (Ⅰ) (Ⅱ) に同じであり、集風集約用遮蔽物本体 (風洞も含む) を設置場所に固定して使用するものであり、単独使用も出来るが、並列型、集合型、連続型等の複数使用に有利である。

設置適地は、河川、海岸、湖などの堤防上に防風林兼用風力発電装置としてや、季節風などの多い地方の防風林兼用及び土地の乾燥防止用兼用風力発電として等々。

### (c) マガフオン型(固定、基本型)

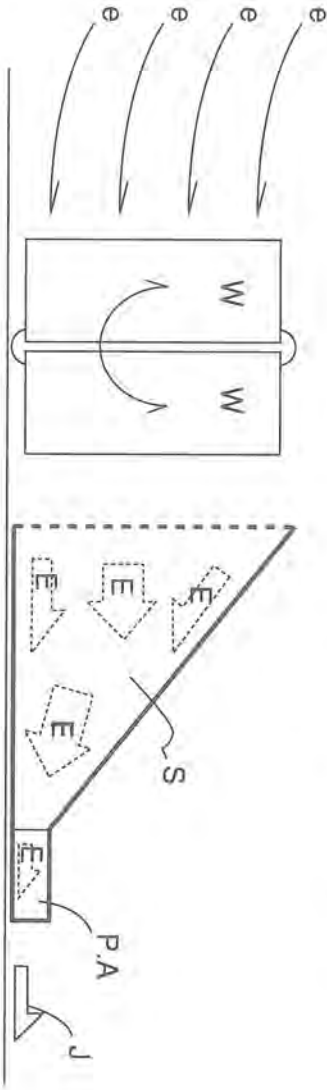
#### 平面図





### (c) ヌガフオン型(固定、基本型)

#### 断面図

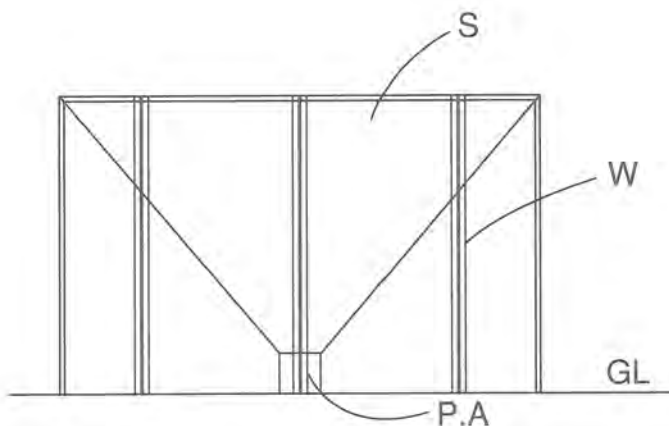


凡例

- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて集中増加した風力で発電する発電機(風洞内)
- E = 集風、集約され、強力の風力エネルギーを持った自然風
- e = 自然風
- J = 排風
- P = 風洞(可動)
- S = 集風集約用遮蔽物  
(集風量、風速度調節可)(可動)
- W = 導風壁(可動)

(c) メガフォン型(固定、基本型)

立面図

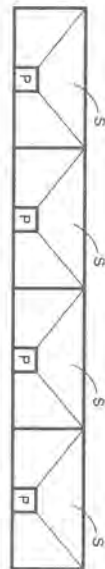


凡例

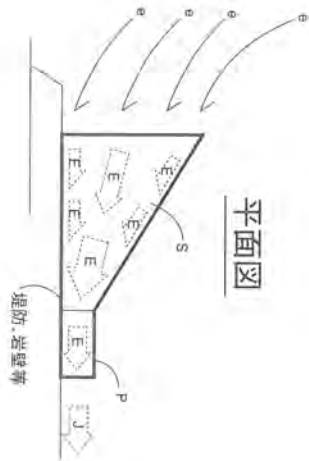
- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて集中増加した風力で発電する発電機(風洞内)
- E = 集風、集約され、強力な風力エネルギーを持った自然風
- e = 自然風
- J = 排風
- P = 風洞(可動)
- S = 集風集約用遮蔽物  
(集風量 風速度調節可)(可動)
- W = 導風壁(可動)

(cⅢ) メガフォン型(固定、集合型)

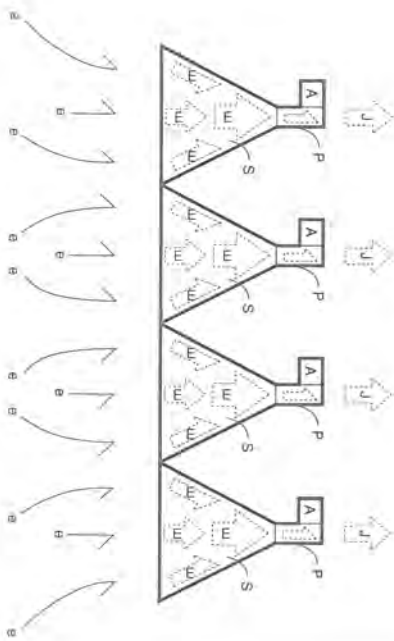
正面図



平面図



配置平面図



凡例

- A = 空電機 (風洞内)
- E = 自然風
- ⊖ = 集風、集約された自然風
- J = 排風
- P = 風洞
- S = 集風集約用遮蔽物

(d I,II)

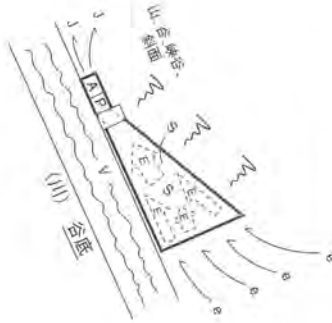
メガフォン型(Ⅳ)(固定型)——中小規模型発電

これはメガフォン型(Ⅲ)の固定型の応用型であり、谷間とか建造物間、峡谷、山あい、川筋などを吹き抜ける自然風を、そのままか或いは更に集風集約して発電を行うもので、単独型または連続型、複合型が出来、比較的大規模発電可能型となる。

設置適地、谷間、山あい、峡谷、川筋等。

(d)メガネフオン型 (固定型)

断面図

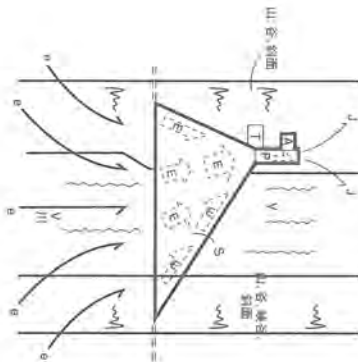


凡例

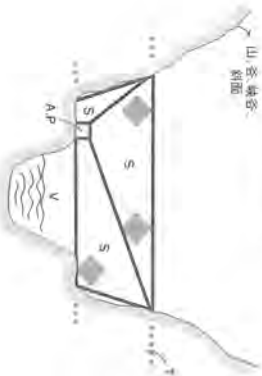
- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて集中増加した風力で発電する発電機 (風洞内)
- e = 自然風
- E = 集風、集約され、強力な風力エネルギーを持った自然風
- J = 排風
- P = 風洞
- S = 集風集約用遮蔽物 (ワイヤーロープ強化シート等) (集風量風速度調節可) (可動)
- T = フォンカレンツ
- V = 谷、又は川

(dI)メガネフオン型 (固定型)

配置、平面図

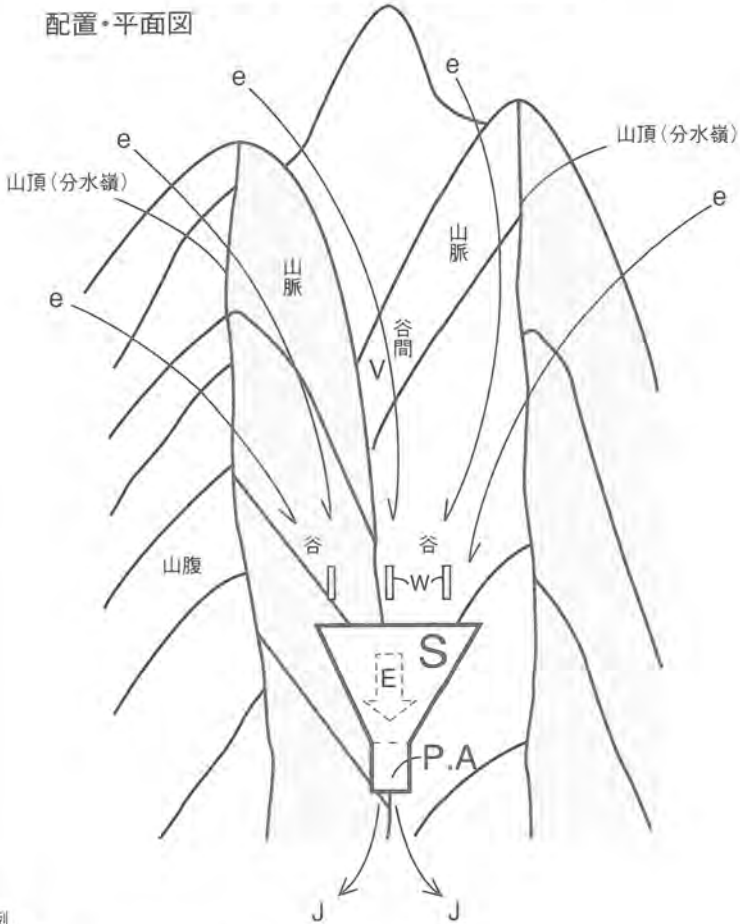


正面図



### (dI) メガフォン型(固定型)

配置・平面図

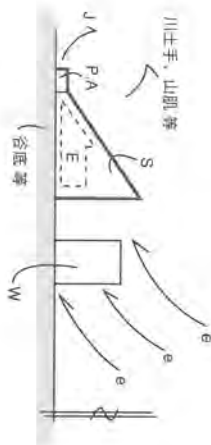


凡例

- |   |                             |
|---|-----------------------------|
| A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて集中増<br>加した風力で発電する発電機(風洞内) | J = 放風                      |
| E = 集風、集約され、強力な風力エネルギーを持つ<br>た自然風             | P = 風洞                      |
| e = 自然風(谷風)                                   | S = 集風集約用遮蔽物(ワイヤーロープ強化シート等) |
|   | V = 谷                       |
|   | W = 導風壁(可動)                 |

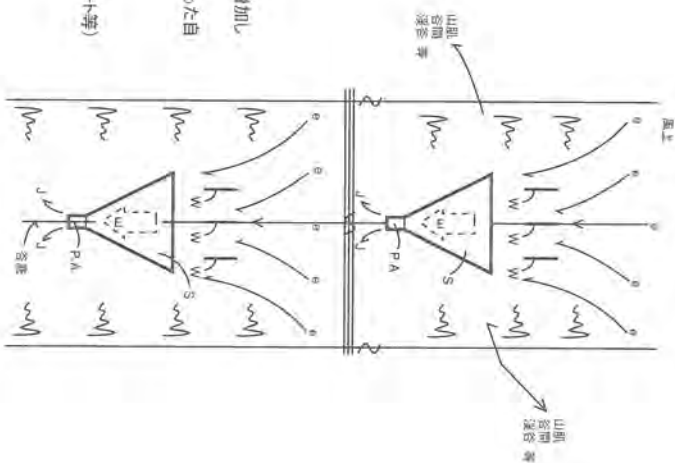
(dII)メガフォン型(直列固定型)

断面図

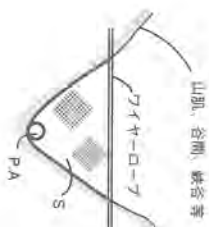


(dII)メガフォン型(直列固定型)

平面、配置図



正面図



- 凡例
- A = 自然風を集風集約用遮蔽物で集めて集中増加した風力で発電する発電機(風洞内)
  - E = 集風,集約され,強力な風カエネルギーを持った自然風
  - e = 自然風(谷風)
  - P = 風洞
  - S = 集風集約用遮蔽物(ワイヤローフ強化シート等)
  - V = 谷
  - W = 溝風壁(可動)
  - J = 放風

(e) 斜面用型（固定斜面型及複数並列型）——中小規模型発電

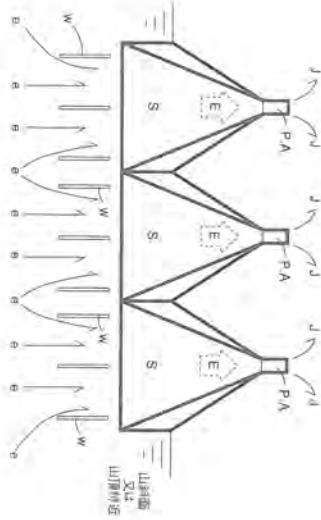
これは、山や丘などの斜面上や頂上付近に設置するもので、山や丘などの斜面やすそ野から吹き上げて来る自然風を、集風集約しそれらに連なる風洞内に設置したファンなどによって得た動力で発電する型で、単独型、集合型が出来る。

設置適地、山や丘などの斜面上又は頂上付近など。



(e) メガフォン型 (複数並列型)

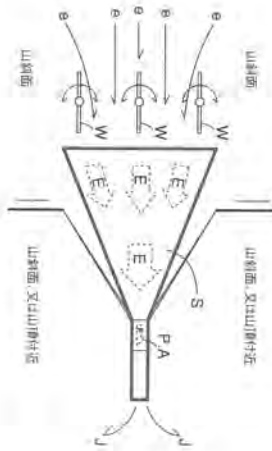
平面図



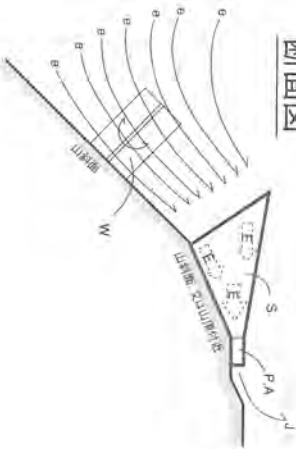
- 凡例
- A = 発電機 (風洞内)
  - E = 集風 (集約された自然風)
  - e = 山腹を吹き上げて来る自然風
  - J = 排風
  - P = 風洞
  - S = 集風集約用途蔽物
  - W = 導風壁 (可動)

(e) メガフォン型 (斜面用型)

平面図



断面図



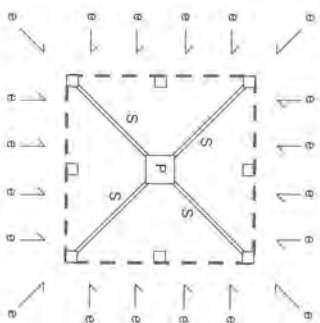
(f LII)

衝立型（固定型）——集風力発電装置ビル型、中小規模型発電

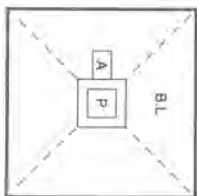
これは、ビルディングなど建造物そのものの一部を集風集約に適した形にして発電する方法で、ビルの壁面に受けた自然風を誘導して集約させ、それに連なる、風洞内に設置したファンなどにて得た動力で発電する、集風力発電装置ビルディング型である。

(f) 衝立型(集風力発電装置ビル型) (I)

集風階平面図

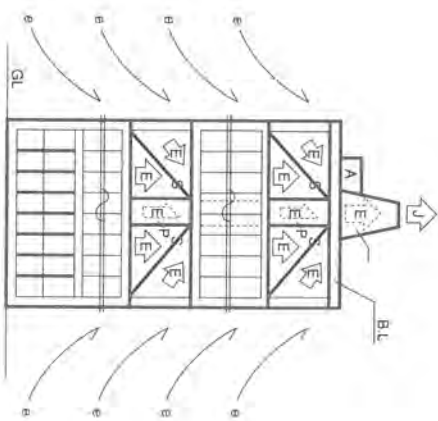


屋上平面図



(f) 衝立型(集風力発電装置ビル型) (I)

立面図

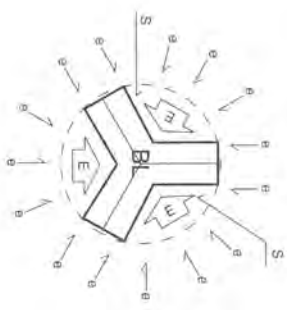


凡例

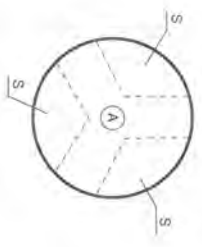
- A = 発電機
- BL = 集風力発電装置ビルタイプ
- E = 集風、集約された自然風
- e = 自然風
- J = 排風
- P = 風洞
- S = 集風集約用遮扉物

(f) 衝立型 (集風力発電装置ビル型) (II)

集風階平面図

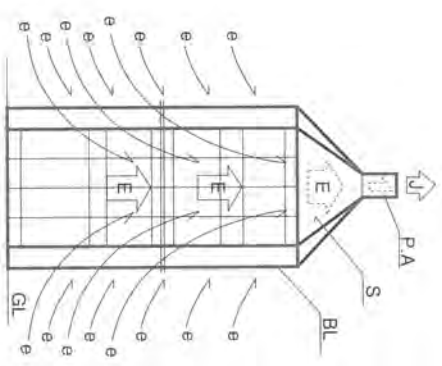


屋上平面図



(f) 衝立型 (集風力発電装置ビル型) (II)

立面図



凡例

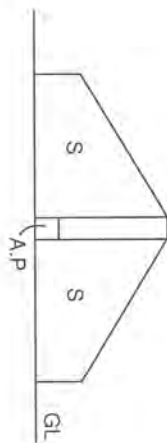
- A ≡ 発電機
- BL ≡ 集風力発電装置ビルテナング
- E ≡ 集風、集約された自然風
- e ≡ 自然風
- J ≡ 排風
- P ≡ 風洞
- S ≡ 集風集約用遮蔽物

(g) シェル型（可動ウイング型）——中・大型発電

これは、野球のバックネットのような形を立体的に作ったもので、自然風を垂直の立体部にウイング部を含めた遮蔽物として広く受け、次第に地上近くの、狭いほうに風を誘導して行き、それに連なる、風洞内に設置した、ファンなど回転させて得た動力で発電する。

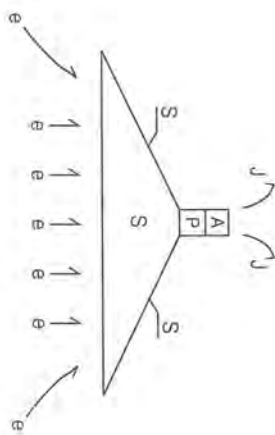
(B) シェル型 (ウイング型)

正面図



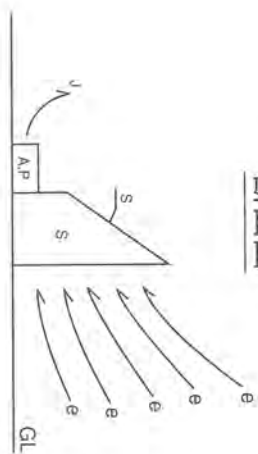
(B) シェル型 (ウイング型)

平面図



- 凡例
- A = 発電機
  - e = 自然風
  - J = 排風
  - P = 風洞
  - S = 集風室約用遮蔽物

断面図

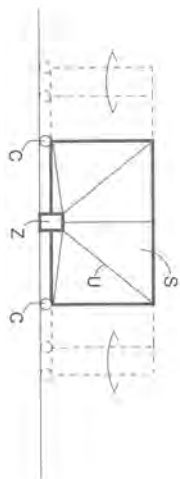


(h) タコ（凧）型（可動型）強風地域（南北極、砂漠等）型—中小規模発電

これは、メガフォン型の集風用遮蔽物を、自然風の風上側に設けた「アンカレイジ」に付けたスチールワイヤー等でメガフォン型の広い口のほうに付け、風の主方向に向かって受風口と共に集風壁が常にアンカレイジを中心に、最適方向に向くようにし、受風した風を誘導集約し、それに連なる風洞内に設置したファンなどにて得た動力で発電する型である。南極とか砂漠地方で使用するのに適していると思われる。

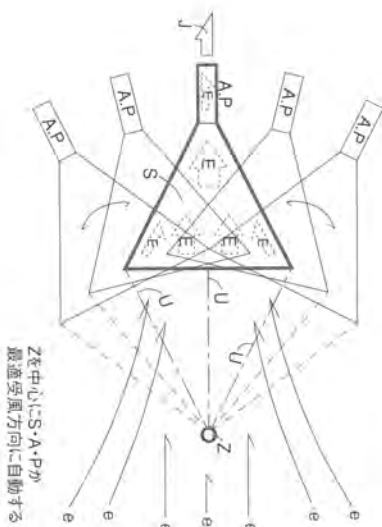
### (h) タコ(風)型

#### 立面図

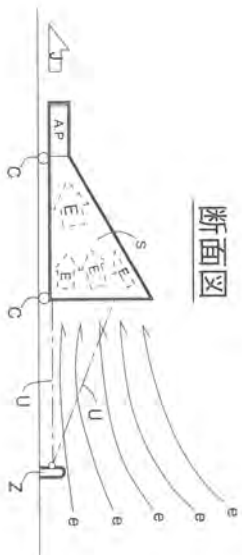


### (h) タコ(風)型

#### 平面図



#### 断面図



#### 凡例

- A = 発電機(風洞内)
- C = キヤスター又はガイドローラ
- E = 集風、集約された然風
- e = 自然風
- J = 排風
- P = 風洞
- S = 集風集約用遮蔽物
- U = ウィンネローフ
- Z = マンカレバシ



(i) 四方八方位型（固定型）——中小規模自給自足型発電

これは、立体集風壁が、四方八方（東西南北）から自然風を受風し、上部又は下部中央に誘導集約し、それに連なる風洞内に設置したファンなどにて得た動力で発電する型である。

(j) その他各種 他

集風力発電システムの構成材料

構造材 鉄、アルミ、プラスチック、スーパー（パイプ） 繊維

ワイヤー スチールワイヤー

成型板 鉄、ステンレス、プラスチック、アルミ

シート ビニールシート

発電機 発電機

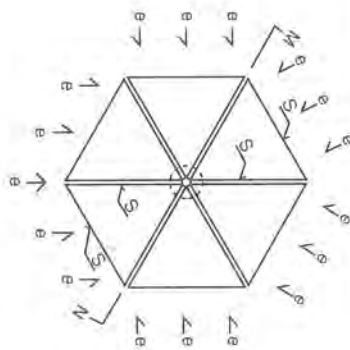
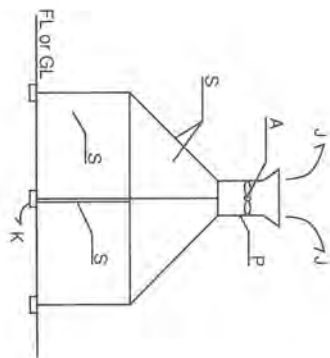
ブレード ブレード等々 他

その他 各種

正面・立面図

(1) 四方八方型(固定型)

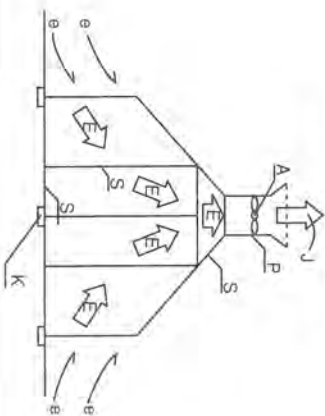
配置・平面図



M~N・断面図

凡例

- A = 自然風を集風集約用途建築物で集めて集中増加した  
風力で発電する発電機(風洞内)
- e = 自然風
- E = 集風、集約され、強力な風力エネルギーを持った自  
然風
- J = 掛風
- K = ファンケースベース
- P = 風洞
- S = 集風集約用途建築物



#### (4) 集風力発電システムと在来風力発電方法との比較

在来型風力発電設備は歴史も実績もあり大量発電に向いているといわれ、一般に大型ほど経済的ともいわれていますが、しかし厳しい自然条件に直接対応し近接性に劣る設置場所に置かれた高い鉄塔上の大型プロペラ型発電設備は今まで数多くの予期せざる事故に遭遇しており、特に最近では大型台風によるFRP翼の折損、被電破壊、鉄塔自体の倒壊折損、試運転中の発電機火災、予想に勝る劣化と短い機械寿命などが報告されています。又在来型風力発電は、特に風況の良好なところを必要とし、年間を通じ地上三十mで平均風速六m/s以上、風軸上の年間風向出現率が六十%以上風向が安定しているところが設置適地とされていますが、しかしこのような適地はそうざらにはなく、そのため風力発電場所は限られた所にしか出来ません。そしてこのように風況のよいところはどうしても電力消費地よりは離れた、海岸や岬・或は山地などの交通運輸などの不便なところが多く、そのため風力発電設置工事用の道路を作らねばならず、大型長尺の発電機用機械の輸送、組立等大型重機、運搬機など使用することとなり、そのため本体建設費以外も多大の費用を必要とし

ます。又故障、事故、予期せざる不適合性など生じた場合も高い鉄塔上などのため復旧修繕、保守点検管理を必要とし、予想外の台風などの自然災害への事前対策が容易ではありませんし、発電した電力の需要地までの配電工事費も嵩むことになります。さらに最近騒音や希少動物への影響、景観などの環境問題も発生しております。

(1) これらを集約すれば、集風力発電システムの特長は次の通りです。  
風況について

基本的には自然風があり、利用出来るところなれば、それを人工的装置で集風集約して風力発電に必要な風力を得て発電することができますので問題は殆どありません。

(2) 環境性について

(a) 騒音には集風集約した風を風洞内のファンの回転等で得られる動力を利用して発電するので騒音はその風洞内で大部分処理することができます。

(b) 希少動物等への影響に付いて

集風力発電システムは地表等に密着式でより近くに設置出来るので、希

少動物等への影響はないと考えられます。

(c) 景観等に付いて

集風力発電システムは地表等に密着或いはより近く設置し、あまり中空に高く位置しないし、またそのデザイン、色彩等周辺の景観にふさわしいものを作ることが十分可能であるので、景観等への影響は少ないと思われます。

(3) 経済性について

1. シンプルなシステムである。
2. 高い鉄塔とかを必要としない。
3. 地表又はより近い地表上に設置する近接性にすぐれている。
4. 設置場所や風況に応じた最適の無数の形状規模や市場にある構成材料等の選択が出来る。
5. 運搬組立て容易で素人でも簡単にできる。
6. 故障、事故、予期せざる不適合性、部品交換等の対応が容易。
7. 台風時等の自然条件遭遇時の事前対策が容易である。

8. 保守点検管理が容易。

9. 需要地近くに設置場所を選べるため配電線費などが少ない。

10. 発電設備設置適地を有利なところを選べるため、そのための諸費用が少ない。その他。

以上等々の理由にて、結果として発電単価も安価となり経済性にすぐれたものとなる。

## ② 集風力発電システムの普遍性

このシステムは、基本的には自然風があり利用出来るところなれば、都会でも地方でも、個人単独の小規模のものから、大型、複合の大規模のものまで、世界中何処でも、設置場所や用途や目的、条件等に応じて最適の無数の形状規模や構成材料等を選択することが出来るし、取扱いも簡単であるから、世界中、どこでも、誰でも容易に利用出来る、その上家庭用も含め一定機種の量産も可能でより安価に供給することが出来るので、普遍性が非常に高い。

### 設置適地例

山岳、砂漠、南北極、ツンドラ、平野、農地、水上、河川上、サバンナ、ビル

屋上、中間階等々。なお防風兼用としては空つ風や季節風用並び堤防上等が適地である。

#### (5) 集風力発電システムの将来性

現代生活はエネルギーを抜きにして考えられない。このように重要なエネルギーとしての、石油、石炭、天然ガス、原子力等は勿論有限であり、ほぼ今世紀二十一世紀中には枯渇するであろうと予測され、又それらによって電気などとしてエネルギーとして取り出す時に、地球や人類に有害物を排出することでも知られており、これらに代わるエネルギー源の開発は何にもまして必要であり重要であります。石油に於いても、世界の輸出国が中東しかなくなって来た今日、その枯渇はいよいよ現実のものとなって来ました。われわれは気付いています。そして気付かねばならないことは森も海も大気もそして天然エネルギー資源も無限でないことを。近い将来必ず尽きることを覚悟しなければなりません。現在のエネルギーのない世界は、われわれの生活が何千年以上の以前にもどつたものになるのです。

そのため再生可能なエネルギーの開発が必要であります。太陽より地球に与え

られるエネルギーは不滅の理想的なエネルギーであり、このエネルギーの活用なくして人類の輝かしい未来は望めないと断言できましょう。現在人類はそれに気付き、太陽光発電や風車式風力発電などが行われておりますが、まだまだエネルギーの主力になるには程遠い実状ですが、今後技術革新による、風車を使わず、風そのものから直接変換により電気を取り出すEGD（エレクトロ・ガス・ダイナミックス）発電又は、EHD（エレクトロ・ハイドロ・ダイナミックス）発電方法等などの新技術やスーパー繊維や高性能蓄電池などの新材料などの研究、開発、発展などにより、各家庭にコンパクトなものを取り入れたり、そして産業用も含め世界中のあらゆるところで、二十四時間利用できる集風力発電システムは、将来の世界エネルギーの最も重要な主役の一つとなるでありませんよう。



## 二、集大気熱発電システム—エネルギー自給自足のキリ札

### (1) 灼熱の大気はグッドエネルギー

地球にふりそそがれる太陽エネルギーはわずか一時間分で世界が一年間に消費するエネルギーに相当するといわれますが、このエネルギーは永久に不減不変であり、安全且つ清潔です。この太陽の熱エネルギーによって生ずる大気温度は熱帯地方で最高気温五八・八℃、最高年平均気温は三〇・二℃となり、亜熱帯地方でも最高気温四〇℃以上で、最高平均気温は二七℃程になります。このような大気熱をエネルギー源として利用し電気エネルギーに変えるため、太陽熱により上昇した大気を圧縮して高熱を得、これにより、発電、製水、製塩を継続して行うシステムです。

### (2) 集大気熱発電システムのメカニズム、原理

集大気熱発電システムは、太陽より地球に与えられた利用可能な大気熱を含んだ大気を効果的に圧縮して、これより高熱を得て、これを利用して蒸気等を発生さすなどして発電を行うシステムであり同時に製水製塩も行えるシステムです。気温三

0°Cで体積1000 m<sup>3</sup>の大気を体積100 m<sup>3</sup>に圧縮すると、気温は単純計算で十倍の300°Cになります。このような高熱を利用して、海水や淡水などを過熱して蒸気を発生させ、タービンを動かし発電を行います。このようにして得られる電力エネルギーは、大気熱圧縮に使用した電力エネルギーの約6倍以上となります。又利用した後の蒸気を利用して、製水し、製塩も出来ます。このようにして得た電力を再び高温等の大気の圧縮に使い、循環して高熱を得、これで再び発電を行います。これを効率化し、くり返し行うことに依って得た多大な電力を広く利用するシステムです。

### (3) 集大気熱発電システムの効果

太陽より地球に与えられる熱により、地球大気平均気温は一五°C位ですが、当然地域によっても異なり、北極や南極方面の極寒の地から、赤道直下の熱帯地方やそれに連なる亜熱帯地方は、年平均の気温が高く、真夏時には四〇°C前後の高温となります。

このような酷暑、灼熱の大気もエネルギーの宝庫となり、二十四時間、三六五日、

循環型、永久不滅のエネルギーの創造となり、エネルギー問題の解決、地球の環境改善、電気でも水を分解して水素を製造することが出来るなど、新産業の創出等に多大な貢献を果たすこととなります。

#### (4) 集大気熱発電システムの経済性

集大気熱発電はその熱源を広く不変恒久の大気に求めるため、熱源費は無料で無尽蔵であり、高熱で蒸気を発生させタービンを回すなどの技術はすでにほぼ完成されたものであるので、効率よく、シンプルに行えるし、又電力消費地に近く地理的に有利なところで発電出来るので、電力発送費等が節約して安く行え、送電ロスも少なくすみ、非常に安価な電力を供給することが出来ることとなります。

#### (5) 集大気熱発電システムの環境性

集大気熱発電システムは火力発電や原子力発電、天然ガス発電等に比べ化石燃料などを燃やすとか、ウラニウムを使用するとかしないので、大気を汚すとか、放射能問題とかに無関係であり、空気中の大気熱を活用するので、地球環境、地域環

境に良好な発電システムとなります。

(6) 集大気熱発電システムの普遍性

集大気熱発電システムは、熱帯地方亜熱帯地方を問わず、年中無休で稼動することが出来るし、電力需要地等への近接性にすぐれておりますし、日本でも夏期などは、道路のアスファルトが融け、裸足で砂浜に立っていることが出来ない程の高温にもなるぐらいですから、集大気熱発電は時期を限れば地球上の相当広範囲の地域で利用出来るはずです。

又盆地などのようにして、通気を抑えるような形とし、そこでの高い大気熱を利用して集大気熱発電をすれば、より広い地域で効果的に行うことが出来ますし、安価な電気エネルギーがあれば、至近の暑さに苦しむ都会社会に高原の清浄冷気をパイプラインなどで送風することができます。

(7) 集大気熱発電システムの今後

集大気熱発電システムは、このように、その経済性、循環性、不滅のエネルギー

性等々の数多くの利点があります。

世界では今なお十六億人が電気のない生活をしているといわれていますが、発展途上国や地域産業や経済にも大きく貢献で出来ます。

集大気熱発電システムは又同時に飲料水や食塩をも同時に製造することが出来ます。

集大気熱発電システムを、地球と人類の輝く永遠の未来のため、全人類が力を合わせ発展させねばなりません。

## 第8章 人類は恐竜の轍をふまない

### (1) 恐竜はなぜ絶滅したか

恐竜は約二億五千年前に地球上に出現し六千五百年前に絶滅したといわれており、一億八千年もの気も遠くなるような時代を生き抜いていたその恐竜が絶滅した原因は一体何であったのでしょうか。

恐竜絶滅の原因には多くの有力な説がありそのいくつかをあげますと

- (a) 地球への隕石落下説
- (b) 地球の寒冷化で地球の氷河期の到来による、気候の大変動
- (c) 気候変動による食糧不足による飢え
- (d) 伝染病流行

その他諸説があり又そのいくつかが複合的要因でもあったと考えられますが、かつては恐竜が存在していたことが事実なら、絶滅したことも確かでしょうから、その

原因があったことも確かであり、そしてそれが恐竜自身をとりまく地球の環境の變化に絶対的に対応出来なくなったことも事実でしょう。

(2) 恐竜絶滅の理由の考え方

ここで恐竜絶滅の原因解明の方法や考え方は出来るだけ“シンプル”なのが望ましいと思うのです。それは恐竜の実物を実際見たものがないし、絶滅を体験したのも勿論ないわけですから複雑な解明をしたところでわかりにくいだけで無意味であり、それが出来るだけシンプルであれば多くの人々が理解し、納得出来るすいからであります。

シンプルなのがよいという点から言えば、バケツが水漏れしないか調べるのに顕微鏡で調べて証明するのも方法ではありませんし、水を入れたらわかることであるようなものでありましょう。

(3) 恐竜絶滅の原因

その1

一億八千万年も生き栄えて来た恐竜の長い時代には、勿論地球の気候の大変動とか伝染病の流行とかは数え切れない程あつたはずであり、それらをクリアして生き抜いてきた恐竜が、その時期時期に数種が死滅することはあつても、同時に全種が絶滅することは余程決定的絶対的要因があつたと考えねばなりません。

その2

恐竜絶滅の理由を“シンプル”に考えれば恐竜はその巨大性故に栄え、その巨大性故に絶滅したのです。

恐竜の特徴は何と言ってもその巨大性にあります。小型のものもありますが、現在までわかっている最大の“ウルトラサウルス”のように、体長三十m高さ十八m体重八十〜百tで四足走行という、ちょうど現在の重機百tクレーン車が生き物として動いているわけであり、四足でその重さを支えるだけでも大変であり、まして常に動き回るとなると大変なエネルギーが必要であつたはずで、す。化石で発見された恐竜の骨格などの構成主成分から見ても、現在のカルシウム等を主成分とする、動物の骨などと大差ないようであり、その骨格や筋肉で重い体重を支え又肉食恐竜ならば他の動物を補足するため、走り回ろうとすれ



ば、それらに相当な負担がかかるわけで、それらが可能であったということは、余程自然環境が現在より異なっていたか、巨大な体重を持つものに有利であったか、あるいは巨大体重を育てる合理的な条件であったとも考えねばなりません。

その3

恐竜がその巨体を地球上に自由に動き回れたその時代は、地球の引力が今より相当小さかったが、恐竜が絶滅した今から六千五百万年前頃から地球の引力が現在のようになり、恐竜はその巨体故に自らを維持出来なくなり、遂に絶滅したのです。

鯨も同時代数拾トンの巨体を持つ陸上動物であったが、その時期を境にいち早く、巨大な体重を維持しやすい海に生活の場を移し、うまく適応して現在に生きているのです。しかし陸上では体重の小ささ故にコモドトカゲとかワニ、トカゲ、イグアナなどが現在に生き残っているのです。

その4

地球の引力が今より小さかった原因として

(1) 地球全体の質量が今より小さかった。

例…月は地球の質量の1/6であり、従って引力も地球の1/6である。

(2) 地球に引力を及ぼす月のような衛星が、いくつもあり、地球の引力に影響を及ぼすほどのものであった。

(3) 地球をとり巻く空気圧が現在より少なかった。

地球上表面では現在10mの海底にいるものと同じ圧力を受けているといわれているが、その時期は空気濃度が少ないとかの何らかの理由で、地上で受ける空気圧が少なかった。

その5

二十億年前の地球の一年は四百四十八日以上あったという。古世代の五億九千万年前は三百九十一日であったという。しかし公転は同じであるから一日の長さはその分短い。地球の自転が早い。そのため遠心力が働き、そんな影響があつて地球の引力が小さかった。

以上その1と5まで等の理由により、地球の引力が少なかったため、恐竜始め動物や植物が巨大化していたが、六千五百万年前地球の引力が現在のようになり、巨体恐竜はその体重を維持できなくなり遂に全種絶滅したと考えられるのです。

恐 竜

バロサウルス



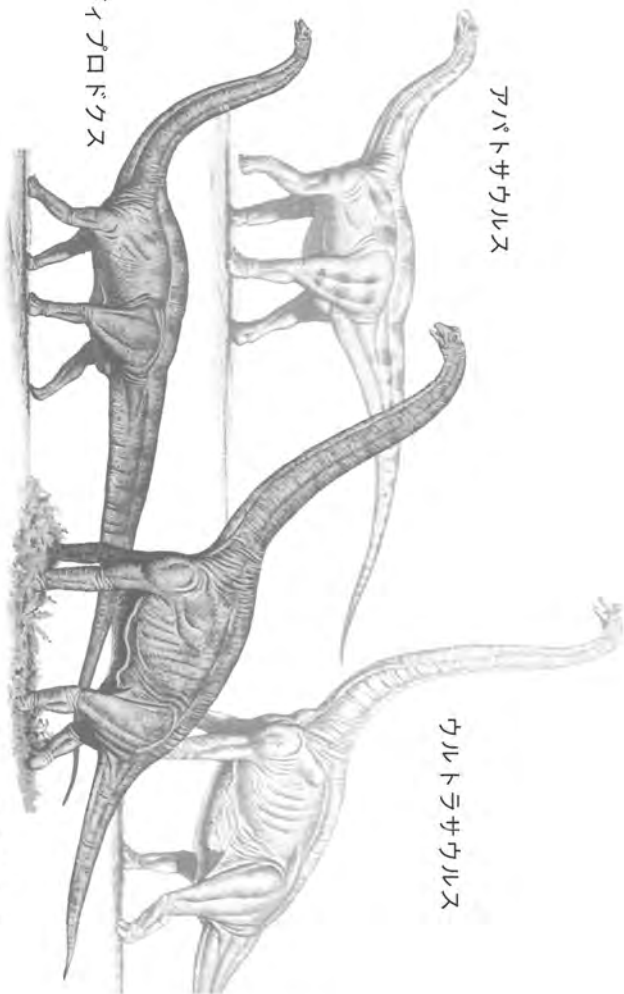
# 恐 竜

アバトサウルス

ウルトラサウルス

ディプロドクス

アラキオサウルス



(4) 人類は恐竜の轍をふまないために

一億八千万年の長きに亘り、その巨体と共に繁栄しその巨体と共に絶滅した恐竜と、恐竜の後を引きつぎ、その頭脳の優秀さによって繁栄している人類も今のままの資源の浪費と豊かさに埋没し地球環境の悪化を続けていくならば、必ず遠からず、恐竜絶滅の轍を踏むことになりかねません。

今世界が直面している、地球環境、エネルギー、水資源の問題は同時に地球と人類の興亡にかかわる最重要問題であり、これらの解決により世界に真の平和と豊かさが生まれます。有史以来人類が成し遂げた技術進歩の全てを結集し発展させ、志ある人、若き人々にこれらの革新を実らせてもらわねばなりません。

今なら未だ遅くはありません。人類と地球の輝く永遠の未来のため、今こそ太陽より地球に与えられた、天与の無限の恩恵を十二分に活用すべく、すべての人々が力を合わせ、チエを出し合い、頭脳を結集して人類と地球の輝く永遠の未来を築いていかねばなりません。

## あとがき

これは、かつていろいろな形で発表したものをまとめたものです。

日本を少しでもよりよき国にしたいというのがわたしたちの願いです。

人間というものは不完全であり、人間のつくる世の中は完全なものではないという考えに立てば、自分達の意見や見方・方法は絶対ではなく、これに反対するものからでもプラスを引き出すことが出来るといふ考え方が生まれて来るはずで

このような相立相克、切磋琢磨の中からよりよいものを導き出し、発展させていくのが真の民主主義だと考えるのです。

わたしがこの本を通じて皆様と知り合せてしあわせであると思ひますし、皆様もこの本を通じ、私と知り合せてよかつたと思はれる本であることを願つております。

イノベーション

輝く新世紀／人・夢・未来

---

平成9年1月15日第1刷発行

平成17年10月1日第2刷改訂発行

発行・著作者 脇田 正男

〒655-0872 神戸市垂水区塩屋町2-4-56  
VOICE・FAX (078) 752-3753

印刷 (株)デジタルグラフィック  
TEL (078) 371-7000

定価 1,800円

ピラミッドは人工降雨目的だった  
飛行艇で日帰り中距離観光旅行  
灼熱の気はグッドエネルギー  
安全で健康第一の上水道  
人類は恐竜に学ぶ